

鎌倉市教育委員会 令和5年8月臨時会議録

○日時 令和5年(2023年)8月17日(木)
9時30分開会 14時56分閉会

○場所 鎌倉生涯学習センター ホール

○出席委員 高橋教育長、下平委員、朝比奈委員、長尾委員、林委員

○傍聴者 34人

○本日審議を行った案件

日程1 協議事項

令和6年度(2024年度)使用小学校教科用図書の選定について

日程2 議案第17号

令和6年度(2024年度)使用小学校及び中学校教科用図書の採択について

高橋教育長

はじめに入退室についての注意事項だが、休憩時間以外に入退室をする時には協議の妨げにならないよう種目と種目の間をお願いします。会議の途中で休憩を予定しており、協議途中の入退出は遠慮願いたい。

それでは、定足数に達したので、委員会は成立した。これより8月臨時会を開会する。本日の会議録署名委員を林委員をお願いします。

私が就任後初めての教育委員会であるため、一言ご挨拶申し上げます。高橋洋平と申し、令和5年(2023年)8月1日に着任して2週間程になった。職員に助けられながら楽しく仕事をし始めたところである。一方で、教育委員会の会務を総理するという重責なので、気を引き締めながらも、鎌倉市の教育文化の振興に向けて、これまでの経験と専門性を使いながら全力で取り組んでいく。どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育委員会制度の主旨は、レイマンコントロールにある。4名の教育委員の豊かな知見と市民目線での意見をいただきながら、合議により鎌倉市の教育文化の重要事項について審議・判断をしていくことになる。鎌倉市の教育文化の振興にとって、得難い4名の教育委員と共に力を合わせて教育委員会の運営を進められるということをお大変嬉しく思っている。

私の信条は、挑戦・対話・笑顔である。教育委員会事務局である教育文化財部や学校の職員と様々なチャレンジをしながら、子どもたちや市民の皆様の声に耳を傾け対話しながら、ワクワクが生まれるような現場主義の教育行政を進めていきたいと考えている。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定に基づき、あらかじめ教育長

が教育委員の中から教育長職務代理者を指名することとなっている。私としては下平委員に依頼したいと考え、令和5年（2023年）8月1日付で下平委員を職務代理者に指名したので報告する。

本日の議事日程であるが、お手元に配付したとおりである。本日は令和6年度（2024年度）使用教科用図書の採択について、審議をお願いする。なお、小学校使用教科用図書については、文部科学省「令和6年度使用教科書の採択事務処理についての通知」により、すべての教科書について新たに採択を行うことができるとされていることから、始めに協議事項として種目ごとに選定についての協議をお願いする。その結果を踏まえ、議案第17号において、採択についての審議をお願いする。では日程に従い、議事を進める。

1 協議事項 令和6年度（2024年度）使用小学校教科用図書の選定について

高橋教育長

それでは、日程の1、協議事項「令和6年度（2024年度）使用小学校教科用図書の選定について」を協議する。協議事項の説明を願いたい。

教育指導課長

協議事項「令和6年度（2024年度）の使用小学校教科用図書の選定について」説明する。議案集の1ページを参照願いたい。

「令和6年度（2024年度）使用小学校教科用図書の採択」にあたり、検討委員会より報告のあった「令和6年度（2024年度）使用教科用図書調査研究報告書（小学校）」をもとに、教科用図書の選定について協議いただくこととなる。それに先立ち、この報告書作成までの経過について説明する。

本年4月の教育委員会で、「令和6年度（2024年度）使用教科用図書の採択方針」の議決を受けた。その採択方針に基づき、鎌倉市教科用図書採択検討委員会（以下、「検討委員会」という。）を5月に設置している。第1回検討委員会を5月11日に開催し、教育委員会が採択をするにあたって参考となる資料を作成することを、教育長から検討委員会に依頼した。検討委員会では、報告書を作成するにあたり、種目ごとに調査委員を置き、依頼内容に基づき、調査委員に教科用図書見本の調査研究の指示をした。調査委員会では第1回を5月19日に開催し、調査活動に入った。さらに6月8日及び29日の計3回開催し、調査資料を作成した。この調査資料をもとに、検討委員会を7月7日及び21日に開催し、内容の検討に入るとともに、総合評価について協議し、検討結果として報告書をまとめてもらった。7月31日に検討委員会委員長から報告を受け、教育委員へ届けた。以上が経過となる。

続いて報告書の説明をする。「令和6年度（2024年度）使用教科用図書調査研究報告書（小学校）」の1ページを参照願いたい。左上に種目が示されている。また、表については左の項目から発行者番号、発行者略称、署名、検討結果、総合評価となっており、発行者番号、発行者略称、署名は文部科学省から送付された小学校用教科書目録に示されたものとなっている。鎌倉市教科用図書採択検討委員会で協議した内容を、発行者ごとにその特徴を記述したものを総合評価に記し、検討結果に鎌倉の児童にふさわしいと検討委員会で判断した教科書を一重丸、鎌倉の児童によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書を二重丸と記している。この形式で13種目の教科書について報告がされている。以上で報告書の作成経過と報告書の内容についての説明を終わる。

本日は小学校用及び中学校用の教科用図書の採択を行うが、このあと小学校用教科用図書について、1種目ずつ協議いただき、鎌倉の児童にとって、最もふさわしいものを選定いただくよう、よろしく願います。なお、種目ごとの担当指導主事より、協議の冒頭に報告書の説明をさせていただく。また、協議における詳細内容の質疑等についても発言することを了承願いたい。

(質問・意見)

特になし

高橋教育長

協議に先立ち、協議の前提と進め方について諮る。私たち教育委員会も、事務局職員も、本日の教科用図書の採択に向けて、色々な形で勉強をしてきた。その上で、本日の協議における前提を3つ確認したいと思う。

まず第1に、本日候補に挙がっている教科書は、教科書検定を受けているものであり、学習指導要領に基づき一定の基準を満たしているものである。その上で、教職員からなる検討委員会を経て、二重丸と判断された教科書は、鎌倉の子どもたちにいずれもふさわしいものとされたということである。まずこの検討委員会での判断を、私たちの議論では重視していきたいと思っている。

第2に、今回の採択については、現行の小学校学習指導要領のもとでは2回目の採択となる。従って、現在使用している教科書の使用感や、課題等について、現場からの声を重視していきたいと思っている。一方で、前回の採択から、GIGA スクール構想などの事情変更もあるので、こういったところも確認していきたいと思っている。

第3に、学校現場や検討委員会からの声を重視しながらも、あくまでも教育委員と教育長である私ですが、この場で協議しながら、教科書の内容や、分量、構成、工夫、資料、表記などを多角的な観点で検討し、合意により決定することが、ここでの最終決定となる。従って、鎌倉の子どもたちにとって何がいいのかという観点で、今日は各委員には忌憚りの無い意見をいただきたいと思います。

本日の進め方であるが、検討委員会から報告された「令和6年度(2024年度)使用教科用図書調査研究報告書(小学校)」に記載されている13種目について、種目ごとに協議を行う。まず担当指導主事より、研究報告書の説明を受け、次に報告書にある検討結果や総合評価を踏まえ、どの教科用図書が鎌倉の子どもたちにふさわしいか意見交換を行い、最終的に全員一致の意見で、採択を行う。各委員には、検討委員会から出された報告書の内容や教科用図書を見たらうでの意見等を出してもらいたいと思っている。また種目の協議順であるが、特別な教科「道徳」をまず最初に協議を行い、以降は報告書の記載の順番で進めていこうと思っている。

(質問・意見)

特になし

それでは早速、まずは道徳、以降は報告書に記載の順番ということで協議したい。それでは、道徳について、担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

道徳担当指導主事

では、道徳について説明する。検討委員会で6社の教科書見本本を検討した結果、その中でもふさわしいと判断された3社について説明する。

まず、東京書籍について説明する。自分の考えを可視化する様々な思考ツールが各学年の巻末に載っており、子どもたちが自分の気持ちを視覚化する方法を学ぶことができる。道徳以外の場面においても活用できると思う。

続いて、光村図書について説明する。各学年、「道徳が始まるよ」というページから始まっている。「道徳で学ぶ20のとびら」、「道徳みちあんない」では、1年間の学びを見通すことができ、「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」では、学年に合わせた話し合い方を段階的に学んでいくことができる。各学年の最初の題材に載っている「どうとく学び方」には、教材を読むときや、自分の考えを話したり書いたりするときの具体的な学習方法が示されており、これから1年間道徳を学んでいく際の参考となる。

最後に、学研について説明する。題名の下に内容項目の記載では無く、児童が読んでみたくなるようなキーフレーズがついている。感情を呼び覚ますような言葉が使われており、教材に興味を持たせる工夫が見られる。

(質問・意見)

下平委員

道徳だけに限らないのだが、私は何回か採択をしており、今回つくづく感じたのは、どの教科も非常に多くQRコードが多用されており、随分教科書の使い方が変わることを実感した。教育現場に求められるものが色々変わってくると思うので、そういう未来も考えながら、私どもも意見を重ねて検討してきた。

道徳に関しては6社なのだが、非常に読み物が豊富で、バラエティに富んでいて豊かで、各社とも重なっている内容のものが非常に多かったように思う。しかし、そこから気付かせたいもの、取り上げ方などが、それぞれ工夫が見られていて、各社とも本当に素晴らしい内容であった。私自身も色々感じて、考え、学ばせてもらう内容であり、素晴らしかったと思う。

例えば、四年生のどの教科書にも、宮越由貴奈氏の「命」の詩が取り上げられているのだが、光文書院では、その時同じ院内学級で学んでいた人が、由貴奈さんの死を知って、医者を目指して医師として活躍しているという取り上げ方をしているところが非常に特徴的で印象に残っている。

学研に関しては、非常に読み物が多く、漫画やイラストなどもたくさん多用している。ただ少し気になったのは、病気で亡くなる子の話が多く、少し悲しくなってしまったということである。続けて読んでいたら、そのような思いが残ったこともあった。

東京書籍は、表紙の裏に各学年の目標とする詩とイラストが印象的にダイナミックに使われていた。そのイラストと詩を読むだけでも、1年間で何を学びたいのかが分かるような作りになっていて、そして非常に構成上もすっきりと見やすい作りになっていた。1年生から「いじめについて考えよう」というテーマもしっかりと取り上げていた。以前の採択でも、心情円が使いやすいという意見が、現場の先生から出ていたのであるが、3年生までは心のメーター、4年生以降は心情円を使用しており、先生に

よっては使いやすいのではないかという印象があった。

そして、現在使用している光村図書だが、素晴らしいのは、道徳とは「心について考える時間である」ということが非常に明確に最初に語られていることである。さらには、心について考える時間の中で、自分の心について、そして相手の心、みんなの心、命、自然についてというようにテーマが明確になっていると思った。様々な絵を見たり、読んだりして、思ったことを話す、考える、そして意見し合う、その中で何かを見つけ出すという構成が非常に上手く作られていると感じた。そしていじめを許さない心を大変重視されているように思う。

先程申したように、各社とも非常にバラエティ豊かで豊富な内容なのだが、大事なのはバランスの良さである。光村図書は、洋風な物、和風な物、それから古い物、新しい物、そういうバランスが非常に良く取り上げられている。また、道徳で何を感じたいのか、何を学ばせたいのか、掴みたいのかということが明確であり、しかしあからさまであり過ぎない。それが子どもにとっても指導者にとっても凄く重要なポイントではないかということを考えながら読み進めた。その結果、各社とも素晴らしいとは思いますが、光村図書を推したいと思う。

長尾委員

私は、光村図書が非常にバラエティ豊かで読み物として素晴らしく、学年ごとで、段階的に人と対話する力を育めるのではないかと感じた。

学研は、教科書を見たときに、非常に視覚的に訴求する力が強い教科書だと思った。読み物というところで、文字が中々入ってこない子どもにとっても、視覚的に何か訴えるもの、伝える力があるのではないかと思い、非常に強く印象に残っている。

光村図書も学研も非常に選びがたいかなと思っているが、今回のところというと、バランスからも光村図書が良いのではないかと考えている。

林委員

私も二人の委員と同じように感じている。どの教科書も視覚的にカラーを分けており、4項目のカラーを色々な部分に使っていて、子どもたちが学んでいるときに、この内容を学んでいるというのが自然に入ってくる工夫が、どの会社にも見られたと感じる。

東京書籍は、子どもの権利条約、世界人権宣言、いじめ防止対策推進法の3つの法律が簡単ではあるが入っている。これは小学校では難しい部分もあるが、一回耳に通しておくことで、成長した時点で深く読んでみようかなという気持ちになるかとも思うので、非常に良い入れ方をしていると思う。いじめ防止対策推進法については、どの教科書も取り扱っているが、あとの2つについては掲載されていなかったのので、その部分について、東京書籍はよかったと思っている。

また、学研は、「心のパスポート」という、学んでいる流れから少し視点を変えて、自分に返して考えてみるコーナーが良いと思った。

ただ二人の委員が言ったように、光村図書がバランスや内容が良く、また、3年生に「風呂敷」という古典の物が取り扱われており、道徳は心というが、こういう昔の物を大事にする心も扱うのだなということにはっとさせられ、光村図書に惹かれた。

朝比奈委員

各社とも非常にデジタル化を意識しており、いつかは紙の教科書が無くなって完全なデジタルになるだろうと思いつつ、紙の体裁というのは非常に読みやすく、そして頭にしっかり入ってくるものだというのを、この度も痛感した。

学研は色々な教科の教科書を作っており、非常にビジュアルが綺麗という印象が強く、いつもそこが目止まるが、やはり光村図書の独特の活字が良く、これは長年の蓄積なのだろうと感じる。特に国語の教科書等を見ても、光村図書の教科書は非常に安心して目に入ってくる体裁であるとおつくづく感じる。それだけがポイントではないが、三社の中で言えば、色々な意味でバランスを考えて光村図書を推していきたいと考えている。

高橋教育長

では意見が出揃ったので進めて行きたいと思う。各委員からは全体のバランスや内容、特にいじめや子どもの権利条約等を取り上げたり、またデジタルという視点等でそれぞれ意見があった。私がそれ以外に特にしっかり見た点としては、この特別な教科である道徳の狙いのもう一つとして、「考えを議論する道徳」というのがあり、道徳的価値観を一方的に教え込むのではなく、対話により自己を内省していただくか、そういった活動や工夫が持てるかというところは重視したいなと思っていた。また、ネットモラルや、感染症、それによる差別等、そういった現代的な課題が盛り込まれているかということも考慮したいと思っていた。

各委員から光村図書を推す声が大きかったかなと思っているが、発達の段階に即しながら深く考えさせて、先程申し上げたような「考えを議論する道徳」の狙いを達成できるような工夫が効果的かというところで見ると、私も同じ考えである。題材やその選び方は児童が読んで関心を持つような話題が凄く多く含まれているし、発達の段階に即しながら深く考えさせて、考えを議論するというような趣旨を達成できる図書かと思っている。従って道徳については光村図書を選定しようかと思っているがどうか。

(異議なし。)

高橋教育長

では道徳は光村図書を選定する。続いて国語について担当指導主事より報告書の説明をお願いします。

国語担当指導主事

国語について説明する。検討委員会では三社の検討教科書見本本を検討した。その結果について説明する。

まず東京書籍について説明する。巻頭に国語の学習の進め方、各単元の始めに学習の流れがまとめられ、学ぶ内容や流れが分かりやすく、児童が見通しを持って取り組めるようになっている。

続いて教育出版について説明する。読む単元の「見通しを持とう」では見開きで「たしかめよう、くわしくよもう、まとめよう、つたえあおう」の四段階で学習の流れが示されていて分かりやすくなっている。

最後に光村図書について説明する。「すがたをかえる大豆」のように説明文を読んで学んだことをい
かし、書くことに取り組む単元が、構成がそのまま活用できるように示されていて、書くときに児童に
分かりやすく、指導者にとって扱いやすくなっている。各学年の「季節の言葉」や、「竹取物語」、「平
家物語」、「柿山伏」といった古典など、伝統的な言語文化の教材が多く、日本古来の言葉に触れたり、
中学校の国語の学習につなげたりできるようになっている。以上である。

(質問・意見)

林委員

各社とも全体から環境に関する現実や、その願いを取り入れることでその未来社会へ生きる児童への
熱い働きかけが伝わった。低学年の読み物教材では、思いやり、道徳的価値の心を育むことを意識した
内容が多かったと思っている。各領域の資質能力の育成を手助けするための工夫として、単元ごとに学
習の流れや見通しを持つというのが学習のサポートにあり、また、各単元に入る前に題名のところに
少しコメントや問いかけが入っており、「これはどんなお話なのかな」と興味関心を掻き立てるよう
に感じた。担当指導主事からの説明もあったが、昔からの言葉の伝え方や古典のものを1つのコーナー
として設け、丁寧に扱って、児童の今使う言葉だけではなくて、先人の尊敬と愛着を育む内容になって
いると痛感した。読書と図書館を結び付けながら、読書を人生の友にして、心豊かな人間性を育成しよ
うという思いが各社とも伝わった。

その中で、教育出版は、見通して学ぶことを常に意識して学べるようなレイアウトが大変良いと思っ
た。東京書籍は、全体としてもそうだが、特に1年生の説明文が、勉強を始めたころに「さとうとし
お」とか、「子どもをまもるどうぶつたち」とか、非常に興味のあるものを配置して、興味関心を高め
ながら語彙を豊かにする上手な手立てをとられていると感じた。光村図書は、私が教員をしていた頃か
ら授業で使っていたこともあるのだが、そういう教材を守りながらも、新しい教材にも取り組んでい
て、その内容が読んでいるうちにハッとすると、心につながる良い教材が多く、また、物語や説明文のバ
ランスが良く配置されているように感じた。それから単元に入る前に、例えば2年生だと、1年生を通
じて学んだことが、少しページが細く、紙質が硬くなっていて、ちょっと別物にすることで振り返り
ながら、積み上げながら学ぶという工夫がみられて、私は大変そこが良いと思い、光村図書が良いと感
じたところである。

朝比奈委員

この三社の中からということなのだが、率直に申し上げて、国語の教科書というのは私が小学生の
時、こんなにも多様な内容、体裁だったのだろうかと思改めて感じた。私も教育委員になってからだいぶ
この教科書採択に関わっているが、そのたびにアップデートして変わっていったのが良く分かるこ
ろである。

分かりやすいことであるとか、フォントの工夫であるとか、これはもう各社様々にされているわけな
のだが、先程も申したように、やはり光村図書が国語の教科書としての、何かこう勘どころというか、
肝のようなものが、比較するとひとつ頭が飛び出していると開く度に感じる。わかりやすさや見やすさ
は、それぞれされていると思うので、説明が難しいところではあるが、光村図書のこの馴染んだ書体と

いったところは、子どもたちが使っていくのに親しみやすい大きなポイントになると思っており、私は光村図書が良いと考えている。

長尾委員

私は、東京書籍の読書活動を充実させていこうというところの、本の題材が非常にバランスに富んでおり、新しいものから古いものまでといったところが非常に子どもたちにとっても面白い題材ではないかといった感想を持っている。

下平委員

教育出版だが、各学年とも最後に「ひろがる言葉」、「言葉の木」というのが取り上げられていて、この付録が非常に良いものだと感じた。教育出版の特徴として、今年度は非常にノンフィクションが多く、観察記録や説明文に非常に力が入っており、昆虫や動物などもかなり取り上げられていて、理科との連携が結構意識されているように感じながら読んでいた。東京書籍で素晴らしいと思ったのは、6年生の「君たちに伝えたいこと」で、日野原氏の「寿命」という文章が載っており、こういった文章は小学生たちには是非読んで欲しいと思いながら読んだ。また、敬語の説明が非常に丁寧に取り上げられていると感じた。光村図書だが、1年生から結構長い読み物が取り上げられているが、必ず長い文の前にはその目的や導入のページが優しく用意されていて、とてもいざなわれる作り方になっていると思う。それと三者比較して読んでみると良く分かるのだが、微笑ましい、夢が広がって行くような取り上げ方をしている、題材が非常に豊富かなと思う。毎回なのだが、表紙にもサブタイトルがついており、これも「かざぐるま」とか「ともだち」とか「かがやき」とか、何か夢が広がるようなキーワードが入っていて、これも工夫があると思った。従って、現行も光村図書を使っていると思うが、是非光村図書で継続してもらいたいと感じたところである。

高橋教育長

今4名の委員から様々な意見をもらった。6年間にするとなかなか分量があるが、この分量自体が各社大きく変わることはないと思われている。前回の指導要領からもそうだが、言語力というのが重視されている。これが学習の基盤となる力だと思っているし、言葉による見方、考え方を働かせて言語活動を通じて正確に理解・表現をしていくことができるように内容が工夫されていることが大事だと私は思っている。

朝比奈委員から話のあった勘どころの良さや、林委員から話のあった伝統的なものと革新的なもののバランスの良さというところは、各委員とも光村図書について言及されていたのかと思う。また、東京書籍や教育出版についても色々良いところがあると我々も議論を深めていったところである。他者と共生し、対話していくというところで言語力はとても重要な部分だと思っている。日常生活において人と人とが関わり合う中で、想いを伝えあったり考えを深めて行くというところについて、思考力や想像力を養う、そういった工夫がされていて、勘どころであったりバランスというところでいくと光村図書が優れていると思う。また、古典のような、新しい内容の子どもたちの興味関心を引く様な内容コンテンツが含まれているところを重視し、私としては各委員からのコメントも踏まえ、光村図書を選定しよう

かと思うがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

では国語は光村図書を選定する。続いて書写について担当指導主事より報告書の説明をお願いします。

書写担当指導主事

書写について説明する。検討委員会で3社の教科書見本本を検討した結果、その中でもふさわしいと判断された2社について説明する。

まず東京書籍について説明する。1、2年生の巻頭の「もちかた」のページに児童と同じぐらいの手の実物大で、左手で鉛筆を持つ写真が載っており、3年生でも左手で書く場合の綴りや、半紙などの配置が示され、左利き児童にとって分かりやすく配慮されている。

続いて光村図書について説明する。教材文字として食品の名前や、「元気にあいさつ」、「新しい風」、「旅立ちの朝」など、児童が親しみやすい物が多く掲載されている。1から3年生では字形のポイントを動物のキャラクターの体の形や、動きで親しみながら視覚的に好かれるように工夫されている。

(質問・意見)

朝比奈委員

書写も国語に引き続き同じ出版社からの選定になる訳なのだが、かつての書道の教科書と言えば、こんなに多様な筆記具の紹介はなかったと思った。特にこうしてQRコードを駆使して、デジタル的に紙媒体だけではなく広い画面で表現したりするのは、おそらく先生が教室で大きなディスプレイでそれを映したりとか、多少筆に自信がない先生であっても、お手本が見せられる使い方をするのかと思う。そういう点でなかなかどの出版社も工夫しているのではないかと感じた。

この中ではやはり光村図書が好ましいと私は感じる。私も仕事柄毛筆を用いるが、こういう教科書をちゃんと使っていたら、もう少し良い字が書けたのではないかとつくづく感じる。教科書というのはしっかりと良くできているのだから、これを元にしっかりと皆さんが字の書き方を、自己流ではなく、基礎から学んでいただければと考えると、この中からだと光村図書がよろしいかと思う。

長尾委員

私も光村図書が非常に印象的であった。先程あったように、低学年のところははねるとか、反るとか、右払いとか、なかなか言葉で伝えても分からないところを、猫のような、あるいは熊のようなキャラクターが出てきて説明していて、そんなところも親しみやすく、身に入るかと思った。毛筆と硬筆の関連を持たせるような作り方になっているので、非常に良い教科書だという印象を受けた。

下平委員

先程説明にもあったが、東京書籍は右手と左手の置き方の実物大とか、QRコードでも説明があるとい

った工夫がされており、それから薄水色の使い方を上手く活用していて、筆の重なりが非常に分かりやすく作られていると感じた。また表紙が動物の絵柄なのだが、ダイナミックで楽しそうだと感じた。教育出版は非常に情報量が多くて、表紙から QR コードがついていて、QR コードの動画で書き方などがいざなわれるように作られているところも工夫かと感じる。光村図書は表紙が珍しくかわいい猫がいっぱい書いてある表紙で、何故かと思って中を開いてみて分かったのだが、先ほど長尾委員からもあったように、筆の払いとか、流れとか、曲がりとかそういうところが猫の動きにあわせて、低学年が分かりやすいように表現されている工夫も見えたと思う。また筆の重なり部分がオレンジ、それから水色で非常に分かりやすく表示されていた。後は、半紙に書いた字が良く教室に掲げてあるが、掲げている時に本当に夢が広がるような力強いメッセージ、言葉がたくさん使われていて、これも選ばれている題材も素晴らしいと感じたので、光村図書がいいのではないかと最終的には判断した。

林委員

私は光村図書にいつも思うのだが、1年生の最初、何も学ばないときに自分の名前を書くコーナーがある。他の二つの会社もあるのだが、何か少し話をしてから書くようになっているので、光村図書は、勉強した最後にどうだったかと比べられるので非常に良いと思う。なかなか書くのが難しかった子どもでも、やはり1年間積み重ねたらこんなになったという一つの印かと思うため、これは前から気に入っているところである。それから新しいところで、光村図書の教科書が色々な教科で分冊的に中に入っているのだが、4年と6年でSDGsブック、それから書写ブックというのが入っている。それがやはりもっと書きたいという意欲が沸くと思うし、教科書を取っておきたくなるという、とても良い工夫をされたなと思っている。また2年生でも、原稿用紙の書き方が少し指導に入っていて、早いようなのであるが、早い時期から原稿用紙に触れておくことも一つ良いかと思い、やはり光村図書を推したいと考えている。

高橋教育長

4名の委員の意見が出揃ったが、光村図書を推す声が多いかと感じた。私も文字を正しく書くことを身につけることができ、そして書写の教科書で学んだ力を生活や学習に役立てていくことが大事な観点だと思い選んできた。朝比奈委員からの毛筆の質というところだったり、長尾委員からあったように跳ねる、反る、払うといったところにキャラクターを交えながら分かりやすく子どもたちに理解させようとする工夫であったり、下平委員からあった題材の選び方、「旅立ちの朝」となかなかワクワクするような題材が選ばれているという観点だったり、または名前を書いてみようという工夫について林委員からも指摘があったりと、こういった生活や学習に書写の力を役立てていく、後はそれを段階的に楽しく、関心を持って学んでいくという工夫に溢れている教科書は私も光村図書かなと思っている。東京書籍については意見もあり、各社とも良い所がある訳だが、光村図書を選定していきたいと考えるのがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは書写は光村図書を選定する。では社会について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

社会担当指導主事

社会について説明する。検討委員会では3社の教科書見本本を検討した。その結果について説明する。

まず、東京書籍について説明する。「つかむ」、「調べる」、「まとめる」（いかす・ひろげる）など本時の学習活動がそれぞれのページに分かりやすく明記されている。

続いて教育出版について説明する。3年、「わたしたちのまちと市」では横浜市、4年、「わたしたちの県のまちづくり」では神奈川県箱根寄木細工など、神奈川県事例の記載が多く、本市の児童が身近に感じながら学習できるようになっている。昔の写真が白黒ではなく、カラーに直してあるため、表情なども分かりイメージしやすくなっている。

最後に日本文教出版について説明する。「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」のページがあり、社会問題と関連付けて考えられるよう構成されている。

（質問・意見）

朝比奈委員

小学校の社会の教科書は本当に様々なのだが、私がいつも最終的にどれを選ばなくていけないか悩んだときにポイントとするのは、偏った見方かもしれないが、やはり鎌倉の子どもたちが学ぶ訳であるから、鎌倉のことが詳しく載っているかが一つの基準になるのではないかと考えている。その観点で見ると、大体は1社にこれだと決めやすいことが多いのだが、この度、大河ドラマが鎌倉殿だったこともあるからか、意外にも北条政子の話がどの本もしっかりと書いてあり、なかなか悩んだところである。今、説明にもあったように、箱根の寄木細工の話であるとか、せつかく学校で取り扱って学ぶためには、地元のことが少し紹介されている出版社のほうが、子どもたちが親しく学んでいただけるのではないのかと感じたため、教育出版社を私は推したいと思っている。三社から選ぶ訳で、本当にどちらにも別に大きな違いはないと言っても言い過ぎではないのだが、選ばなくてはいけないので、あえて教育出版を選ばせていただきたいと思う。

下平委員

教育出版は3年の表紙も横浜が取り上げられている。そして町と市の研究のところでは、鶴見、中山、横浜が取り上げられている。また工場見学は崎陽軒の工場見学ということで、私たちにとって非常になじみやすいものが取り上げられていたし、4年生の中でも水の研究のところでは、神奈川県が取り上げられており、相模湖の水について中心に書かれていた。さらに4年生の152ページだが、藤沢で初めて地域に150年前に学校を開校した小笠原東陽氏の話が取りあげられたりして、私たち鎌倉の子どもたちにとっても非常に親しみやすいものがたくさん取りあげられていると思う。こういった点で、迷いなく、これは教育出版かと感じたところである。ただ、他の会社も魅力があり、先ほど指導主事からも

あったが、文教出版は「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」のページが非常に充実していたと思う。それから6年の教科書では平和主義に関して大切に引き上げられていて、平和に尽力した人々が引き上げられている読み物があり、これが非常に興味深かった。東京書籍については、東京書籍だけが6冊になっているのであるが。5年生と6年生が2冊になっていて、子どもにとっては、持ち歩きが軽くて楽だと感じた。さらには5年と6年が歴史編と政治国際編といったように別れて作られていて、これがある意味使いやすいのかどうなのかという少し迷いがあったのだが、それに関してはなにか検討委員会で意見が出ていたか。

社会担当指導主事

まずこの分かれている長所についてだが、児童が持ち運びをする時に、非常に良いという意見があった。また、やはり歴史や政治国際という問題というのは、歴史を学んでいるけれども政治のことを学ぶため、同じ時に違う本を使いたい場面が出てくるのではないかということで、それについてはデメリットでもあるという意見が出ていた。

下平委員

賛否両論あるかとは思っていた。最終的には教育出版を推したいと思う。

林委員

東京書籍の4年生、県の形をクイズにした差し込みが非常に面白いというか、きっと子どもの興味関心を引くだろうと感じている。それから、どの教科書も子どもの吹き出しで色々な考えを散りばめたページが多いのだが、教育出版はフォントを変えたり、濃さを変えたりとか、大事な所だけ濃くしたりとか、同じようには書いてあるのだが視覚的に見分けることができる工夫が感じられた。それから教育出版の5年生では、目次でいわゆる工業とか農業とか、そういうところの目次に、未来を支える職業、未来を創り出す工業、未来とつながる情報といったように未来という言葉をつけて単元名を書いている。私は、未来社会を意識した内容なのだというのを単元名から持ってきたのは非常に良いと感じた。それからノートのとおり方とか、付箋の使い方とか、5年生の70ページにあるのだが、板書例とかそういう物が織り込まれていて、先生方の参考にもなるのではないかと思った。もう、一点は日本文教出版の最後にSDGsのシールが入っており、これを活用する事によって、ただ見聞きするだけでなく、シールを自分で貼っていくことによって確認ができるというメリットがあるように思った。ただ、先程の未来のこととか、神奈川県を扱っているということで、やはり教育出版が良いと私も思った。

長尾委員

私も教育出版の教科書が良いと思う。東京書籍で良いと思ったのは、先程下平委員からもあったが、5・6年の分冊という点である。私は良いのではないかと思ったのだが、質問にあったとおり、行き来する教科書であることがデメリットであると勉強できた。日本文教出版なのだが、SDGsのところ、学ぶだけでは無くして行動というところのアクションまでできる工夫、これは素晴らしい取組だと思った。

高橋教育長

4名の委員から意見が出揃った。教育出版を推す声が多かったかと思っているが、一方で東京書籍や日本文教出版も社会的な見方、考え方を働かせながら、課題を追求するというような観点に立って見れば、どれも非常に私は楽しく読めて、学びのある教科書だと思っている。その上で、委員の皆様からあった、身近な馴染みやすい教材になっているかと、または未来志向になっているかといった観点や、鎌倉の子どもたちにふさわしい社会の教科書かという観点は私も重視したいと思っている。やはり自分たちが住む鎌倉や神奈川県という所を、そういった社会的な事象についてより良い社会を考えたり、主体的に課題を解決しようとする態度であったり資質能力が非常に重要だと思っており、それはやはり身近な地域から学びやすさ、または関心の持ちやすさが出てくると思う。そういった取り上げが教育出版は多いし、様々な人へのインタビューであったり、扉であったりといったところを重視した作りになっている部分は評価できるポイントだと思っている。より社会的な見方、考え方を働かせて探求的に学べる様な内容になっているということで、教育出版を推していきたいと考えているが、委員の皆様いかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは社会は教育出版を選定する。では地図について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

地図担当指導主事

地図について説明する。検討委員会では2社の教科書見本本を検討した。その結果について説明する。

まず東京書籍について説明する。日本の歴史のページでは、世界との関わりにおける日本の歴史が掲載されており、諸外国と日本の歴史的な関係が示されている。日本の世界遺産、お祭り、特産品や料理など興味を広げるテーマが設定されており、タブレットで詳細な地図を見ることができる環境において、地図としてではなくガイドブックの様な感覚で多面的に学ぶ事が出来るようになっている。

続いて帝国書院について説明する。色々な地図記号のページでは元となったイラストがあり、成り立ちから詳しく説明されている。以上である。

(質問・意見)

高橋教育長

担当指導主事の説明にあったとおり、東京書籍と帝国書院の2社から選んでいくことになる。考慮すべきことがあるとすると、現行の指導要領で2回目の採択となり、今は帝国書院の地図を使用しているというような状況になっている。委員会から二重丸がついているのが東京書籍、丸がついているのが帝国書院ということで、どちらもふさわしい教科書であると評価してもらっている状況である。やはり、同じ指導要領ではあるのだが、GIGA スクール構想が進み、一人一台のタブレットを子どもたちが持てるような状況になり、鎌倉市は特に充実した環境の中で子どもたちが学ぶことができている。したがっ

て、タブレットで地図のアプリケーションであったりとか、ブラウザで様々な地域の3Dであったり、または地図を参照できるようになったというのが、一つの状況変化かと思う。こういった変化を踏まえ、地図だけではなくて、やはり子どもたちが関心を持てるような、統計を始めとする各種の資料というのを効果的に活用して調べたり考えたり表現したりする、そういった所ができるという点を私としては重視していきたいと思っている。そういった観点に立つと、東京書籍の資料が子どもたちの関心を持ちながら学びにいきなうような、どんどん学んで行けるような、深めて行けるような地図になっているのではないかと考えている。また、この件については、委員の意見ももらいたいと思っているところである。皆承知のとおりニュースにもなっているが、東京書籍の高等学校の地図についてはこの度多くの訂正申請ということで、誤字のようなところも含めてたくさんの訂正があった。東京書籍の方からは高校の地図の教科書については出版停止となる事が発表された。小中学校に同様な訂正点は見つかっていないとのことではあり、また再発防止策なども公表されており、そういったものを徹底していく見解が東京書籍からは示されている状況になる。鎌倉市でも改めて小学校の地図の内容について確認をしたところ、誤植や同様の記述など、ふさわしくない記述は見当たらなかった。そちらは東京書籍も十分確認したうえで、小中学校の地図については誤植が無いということになっているが、私どもとしても確認して、そういったところは確認されていないというところが現状であり、現在のところは小学校の地図の影響はないとみている。こういったところも鑑みて検討していければと思っている。学校の専門的な意見としては当初二重丸として上がってきているが、そういった社会全体の情勢を踏まえて、このレイマンの5人でしっかりと最終判断をしていきたいと考えている。ここは私も口火を開かせてもらったが、各委員もこの二冊の教科書を見たうえでの想いや意見などをもらえればと思う。よろしくお願いする。

朝比奈委員

地図帳なので、地図の見やすさが大事だろうと思っており、地図の帝国書院という意識が私は強かったので、前回も帝国書院を選んだのではないかと思う。ただ、改めて2社を比較して見ると、東京書籍は、児童がガイドブックのような感覚で多面的に学ぶことができるようになっており、地図としてはタブレット等で深く見ることもできるうえ、それ以外に地理的な興味を高く高めるガイドブックとなりえるような、そういう体裁の工夫があると感じた。おそらくこういった理由で二重丸が付けられたのだと感じ、私も東京書籍が良いと感じたので、東京書籍を推したいと思っている。

林委員

私も最初は、地図は帝国書院というイメージを持ちながら読んだが、教育指導課からの意見、教員の意見、現場の意見を伺っているうちに、やはりGIGAスクール構想が定着してくると、こういう地図帳のあり方とか、他にも色々な教科で今まで当たり前と思っていたことがタブレットでたやすくできるとか、そちらの方が効果を見込めるとか、やはり教える側も価値観を変えていくことが教科書を選定していく際には大事なのだというのが、今回この地図の件で非常に勉強になった。そこで、実際の授業の時どうなのかなとイメージして見ると、やはりタブレットのある地図を見ながら「この地図帳の何ページ見てごらん、このデータでこうなのだよ」という様な表図解ができるかとなると、帝国書院でもそのように見ながらできるのであるが、東京書籍の方が、よりそういった新しい時代に対応していて、色々な

情報が詰まっっていて学びやすい、それから授業しやすいというふうに考え、私も東京書籍でやってみてはどうかという結論に至った。

長尾委員

私も、今の状況や、GIGA スクールの中での地図のあり方というところで、東京書籍のこの編集の仕方が良いと感じ、東京書籍が良いと思っていた。しかし、その先日の報道の件を聞き、高校生の地図は誤字脱字を含めミスが多かったというところについて、今一度この小学校の地図に関して、東京書籍から今後の方針や対策などが発表されているのであれば、少し聞いてみたいがいかか。

高橋教育長

私から少し説明する。東京書籍の高等学校の訂正事案の関係だが、これについて東京書籍から、再発防止策が公表されている状況である。高等学校の地図については令和7年度（2025年度）供給分を持って発行を停止するというにはなっているが、その部分のリソースを小中学校にしっかり振り分けて、こういったミスが二度と発生しないように最大限の対策を取ることになっている。例えば委託先の校閲責任を明確化する、クラウドのツールを使って工程管理をしっかりと共有していく、または校閲に係る人員体制の増強や作業の的確なスケジュール化を行うなど、そういった点が強化されることになっている。もちろんこれは東京書籍側から公表されているものなので、これを全てこのとおりにできると我々が思うのではなく、我々自身も重層的にチェックしていく必要がある。今回は、ある意味では文部科学省も検定でそこを指摘しきれなかったところもあるので、そこは検定に通っているから完全に大丈夫な教科書だという見地に立つのではなく、我々は我々なりのやり方でチェックをすることが大事だと思う。この度、教育委員会でも改めて東京書籍と帝国書院、両方の地図を見て、不適切な部分や誤植がないかなどを確認したが、そういったところは見当たらないということになっている。その意味ではしっかり使っていける教科書だと思っている。

下平委員

確か、私は4年前の採択の時に東京書籍を推した記憶があるが、その理由としては、非常に資料が豊富で活用しやすいということと、後は優しい色づかいでいて、かつ非常に色づかいの構成が良くて見やすい、そして写真なども美しく取り上げられているといった理由であったと思う。帝国書院は彩度の高い色合いを使っており、それだけにすっきり、くっきり見やすい地図になっているのは確かであった。特に、今回は109ページに鎌倉の様子というのが特記されていて、これは魅力だと思いながら読んでいた。ただ、今回は東京書籍が良いかなとやはり推したいのだが、今回のニュースを受けて少し不安になり、後に差し替え等になるとなかなか教育現場も混乱するし、生徒も混乱するし、そういうことが起こらないかを教育長に確認したところだが、今の教育長の話にあったように、内容を確認して下さっていることがわかったので、教育現場にタブレットが行きわたって変わってきているという時でもあるため、この機会に東京書籍に変更するのもよいのではないかと感じる。

高橋教育長

各委員の意見をまとめると、総じて東京書籍を推す声が大きかったかと受け止めている。一方で下平

委員や長尾委員からも指摘があったように、別な本のことではあるものの、今般の東京書籍の同じ地図ということで、心配もあったところではあるが、それについては対応状況等を私の方からも説明をしたところである。そういった留意事項はあるものの、当初の趣旨に鑑みて、子どもたちにとってどういった学びが得られるか、そしてGIGAスクール構想後の地図のあり方ということで、各委員から意見があったとおりと私も思っている。従って地図は東京書籍を選びたいと考えているがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、地図については東京書籍を選定する。それではここで一旦休憩する。再開は10分後の10時51分にしたいと思う。

<休憩>

高橋教育長

それでは会議を再開する。算数について担当主事より報告書の説明をお願いします。

算数担当指導主事

算数について説明する。検討委員会で6社の教科書見本本を検討した結果、その中でもふさわしいと判断された3社について説明する。

まず東京書籍について説明する。各ページにあるQRコードを読み込む事で、ICT機器で練習問題に取り組むことができ、学校だけではなく家庭でも児童それぞれの進度に合わせた学習ができるようになっている。

続いて学校図書について説明する。どの単元も学習が「はてな(?)を発見」から始まり、主体的に取り組める工夫がされており、単元の最後に「?を解決」で単元全体の学習がまとめられていて、取組に一環性がある。また、単位量辺りの大きさや、割合の単元では4マス関係表を用いて、視覚的に分かりやすい工夫がされており、立式するための考え方を整理しやすくなっていることで、判断力の育成につながっている。

最後に教育出版について説明する。単元の導入でどんな学習が始まるかを身近なところから掴みやすい問題が示され、学ぶ目的を明確にした上で単元の本題に入っていく構成になっている。

(質問・意見)

長尾委員

算数という科目は好きとか嫌いとか、苦手と得意が二分する教科なのではないかと思っており、そういった意味でどの学年でも取りこぼしがないように楽しく学べる工夫を私は重点的に見させてもらった。基礎的・基本的な知識を身につけるための工夫だとか、あとはそれを図や式、表、グラフなどを丁

寧に用いて表現しているかどうかというところでいうと、6社とも甲乙つけがたいかなと思っている。学校図書は先ほど報告もあったが、「はてなを(?) 発見」とか、「?を解決」という形で主体的に学べる工夫が凄くされていて、非常にこちらもいいと思ったのだが、私としては東京書籍のQRコードの活用の仕方が非常に素晴らしいと思った。学校に来られていない児童や、その日休んだ児童でも、このQRコードを使えば本を読むだけではなく、主体的に楽しく学べる工夫ができていのではないかと思っている。もちろん通常の授業の中でもこのような形でQRコードを使っていくこともできると思っている。そして、東京書籍は文字を入れるとか、大きく自分でスライドさせるという形で、見るだけではなくアクションで学べる形になっていた。また、レイアウトや文字も非常に見やすく、ごちゃごちゃせずに全部読み取りやすい、視覚的にも非常にサポートが良い本だと思っている。

林委員

私も、各社とも算数ノートの書き方を丁寧に扱っている印象を受けた。またICTが活用されていて、そこで学習ができるのだが、あえてどの会社もノートはこういうふうにとっていく、単元名を書く、目当てを書く、学びの経過を書く、振り返りを書くという、その流れをキチンと指導しましょうというか、そうやって身に付けていこうという形があり安心した。タブレットの中にしまい込むのではなくて、自分の学びを視覚的に一年間通して見られるという価値も非常にあると私は考えているので、それは各社とも素晴らしいと思った。1年生の初めにスタートブックというものもあって、ここまではしっかりと学んで次、という段階的に算数の既習事項を積み重ねるといふ一番大事な肝の部分が考えられているというのも各社良い点だと感じる。その中で学校図書は分冊となっていて、その分冊が中学校への架け橋となっている。この内容が既習事項なので、この分冊があることによって6年生の学びの見方、考え方がそこに載っており、6年間の全てが網羅されるので、この分冊が非常に価値のあるものだと思います。私はこの学校図書が良いと思ったところである。また、中学校への架け橋の中で、色々得意、不得意が出てくる算数に色々な考え方があり、やり方があるという紹介があって、個別最適な学びに生かせるのではないかと感じたところである。

朝比奈委員

東京書籍という出版社は明治からある凄く古い出版社であるが、それにも関わらずかなり体裁がモダンで、見やすくて凄く良いと思う。学校図書と迷う訳なのだが、こちらだけAB版の大きなサイズになっていて、これはランドセルに入れる時や本棚に置く時に大きすぎるといった意見もあるのかもしれないが、やはり算数なので、色々余白があって書き込みができて見やすいというのは大事だと思う。特に低学年においては、そこが大きなポイントだと思う。かくいう私も算数は小学校、中学校くらいまでは得意だったのだが、その後全然駄目になってしまって、改めて教科書を見ると、教科書の見やすさというのが凄く大事だと感じており、このAB版の良さ、ページに余白があるというこの機能性を推して、学校図書が良いと感じている。

下平委員

私は算数が苦手だった方なのだが、毎回こうやって採択でたくさんの教科書で学べて、本当にリフレッシュできている。中学はついていけないのだが、小学校はなんとかついていけた。そんな視点で、苦

手な生徒でも楽しみながら見やすくいざなわれるような教科書ということで、どれも興味深く見ることができた。啓林館はタイトルが「わくわく算数」となっており、これは苦手意識を持つ人にはありがたいし、そして、ワークシート形式で絵やイラスト等も豊富で非常に使いやすそうだった。また、教育出版や日本文教出版は、「レッツトライ」とか「マイトライ」といったチャレンジページが非常に豊富で、QRコード等も活用してできる子どもにとってはどんどん先に進んでいける工夫がなされていて良いと思った。大日本図書は、「なるほど算数教室」というページで非常に面白い知識が追加されていて、色々な興味をいざなうように工夫されていると思った。この大日本図書は7冊で、学校図書が12冊となっており、この冊数の分け方も各社それぞれの考え方があると思っていた。最終的には私も東京書籍と学校図書で悩んだのだが、東京書籍は1年生のワークブックが特別大きなサイズになっていて、書き込みながら算数にいざなわれるように非常に使いやすく、分かりやすく、楽しく学べるような工夫があり、先程長尾委員からも意見があったが、QRコードが非常に豊かであるのも魅力であると思った。また、練習問題が非常に多くて、回答も分かりやすく提示されていた。学校図書は非常に構成がスッキリと見やすく鮮やかなところが特徴で、後は「考え方モンスター」という工夫があって、子どもたちが興味好奇心をそそられそうな工夫があるように思う。私は初めて4マス関係表というのを知って、指導主事の皆様と話をし、先生にとってそういう活用の仕方があると非常に指導しやすいという点もよく分かった。そんな点から私は学校図書が良いのではないかと感じている。

高橋教育長

委員の意見を総合すると、東京書籍と学校図書についての声が大きかったと思っている。特に東京書籍については私も同じ印象を持ち、QRコードを使い、教科書に書いてあることだけではなく、更に深めていく学びを、GIGA スクール構想で整備された端末も使いながら、それぞれ関心ある子どもたちはどんどん学んで行けるような仕掛けがなされている。また、レイアウトや文字についても長尾委員の指摘のとおりだと思っており、非常に見やすく読みやすい工夫がされていると思う。モダンであり読みやすさが重視されているのも朝比奈委員の指摘のとおりかと思う。

改めて算数の教科書にどういったところが求められているのかを考えた時に、各委員からも指摘があったように、苦手な子どもたちをどういざなうかという観点は、私も非常に大事であると思っている。算数は、少し積み上げの要素があるので、身近な算数の問題を解決するという具体的な実感であったりとか、関心のあるテーマが含まれていたりといった工夫を元に、算数を学ぶ意義を実感していけることは、重視したい観点であると思った。下平委員からもあったように、学校図書については「算数モンスター」という非常に面白い工夫があり、これは評価するポイントだと思っている。このモンスターが、数学的な見方、考え方になっている訳である。そういった考え方をモンスターに照らし合わせ、働かせながら、日常生活とか社会課題について、数学的な思考法を使って、問題を発見したり、解決した過程を振り返ったりということがしやすそうな教科書だろうと感じた。また、これも下平委員からあったように、4マス関係表だとか、比だとか、また筆算、そういった技能を確実に身につけていくということは、非常に重要な要素になるので、こういった工夫についても、優れている部分があるだろうと思った。ただ問題を解くだけということではなくて、グラフであったり、表であったり、図であったり、そういったものを使って、伝えあったり、高め合ったり、学び合ったりという工夫が求められるのだろうと思っており、そういう学習活動をしやすい教科書になっているのが学校図書かと私は思っている。各

委員の意見を踏まえると、東京書籍も得難い部分もたくさんあると思うのだが、総じていうと学校図書の方の評価が高いと考えている。従って算数は学校図書を選びたいと考えているがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、算数については学校図書を選定する。続いて理科について担当指導主事より報告書の説明をお願いします。

理科担当指導主事

理科について説明する。検討委員会で5社の教科書見本本を検討した結果、その中でもふさわしいと判断された3社について説明する。

まず東京書籍について説明する。問題、観察実験、まとめと大きく3つに分けられて進められており、学習の流れを意識させる作りになっている。さらに、それが帯状に表記されていて、より学びの流れが分かりやすくなっている。

続いて学校図書について説明する。QRコードから実験の様子が映像で確認できたり、問題を解くことができたりするなど工夫がされている。また、QRコードから読み取るコンテンツ目次により、各単元の様々なコンテンツにつながるようになっている。付けたい力がキャラクターで表記されており、意識することができるようになっているだけではなく、単元の始めに「できるようになりたい」、終わりに「できるようになった」がセットになって設定されていて、児童にとっても指導者にとっても分かりやすくなっている。

最後に教育出版について説明する。全学年で学んだことが、各学年の冒頭に記載され、新たな学習に取り組みやすくなっているだけではなく、学習の前後のつながりや、中学校との関連がわかりやすく表記されている。

(質問・意見)

下平委員

現在、学校図書を活用していると思うが、5社を丁寧に拝見したところ、学校図書が優れていると思う。特に理科はダイナミックな写真使いとか、分かりやすく見やすい表記が非常に重要だと思っており、その点で非常に優れている。表紙も非常に鮮やかな昆虫や鳥とか、学びをいざなうような表紙使いであり、イラスト、彩りの使い方、配色、紙面構成など、非常にスマートですっきりと分かりやすい、センスがある構成になっていると思う。その他の教科書もちろんそれぞれ魅力があり、例えば啓林館は各学年の始めに、「理科の楽しみ方」ということで、親しみやすい呼びかけがなされていたり、ICTの活用、SDGsに関しても丁寧に取り上げられている。また、WaCBTなど、ACBTやICTの活用などについても、丁寧に最後の方に記されている。大日本図書は、裏表紙の「自由パーク」がとても魅力的だと思った。日本全国の魅力的な写真が鮮やかに取り上げられていて、ちょっと行ってみたいと興味をそそるようになっている。それから「理科の玉手箱」として、資料がところどころに取りあげられていた点も良

いと感じた。東京書籍は、全学年の最後に、理科とSDGs、理科とプログラミングというページが取り上げられていて、大きいサイズでもあるので、それだけに文字も写真も大きくて、ダイナミックな魅力があった。教育出版に関しては、安全に実験を行うための手引きが丁寧に、全ての学年に記されている。また、養老猛氏や向井千秋氏といった著名人のメッセージも興味深く印象に残った。加えて教育出版で感動したのが、6年生の44ページから45ページにある人体の内臓の実物大のフルページである。これが非常にダイナミックで、自分の体にあてはめて、生徒たちも非常にイメージをしやすく、なかなか工夫されていると思った。学校図書は、先ほども申し上げたように、本当に安心して見やすく活用しやすい鮮やかなテキストだと思うし、「算数モンスター」と同じように、「理科モンスター」というのも活用されていて、「発見モグラ」、「計画アリ」、「かんガルー」といった、子どもたちが楽しみながら、今何に取り組む必要があるのか、というのが分かるように、好奇心をそそるように作られていると感じた。また、「科学者を知ろう」というページでは、最近話題の牧野富太郎氏や、その他、野口英世氏、ガリレオ・ガリレイ氏など、著名な方々が興味深く紹介されていた。裏表紙にSDGsと各章の関連イメージがきちんと記載されているというところも、素晴らしいと思った。それら総合的な判断から、引き続き学校図書が望ましいのではないかと考えた。

長尾委員

東京書籍は、先ほど下平委員からもあったが、表紙の「雨雲はどこからやってくる？」と5年生の問いから、裏表紙につながっていく工夫があるなど、紙面の作りが上手だと思っている。ここは視覚的に刺激のある教科書だと思った。ただ、私も学校図書を推したいと思っている。「理科モンスター」であるが、実は学年が上がると少しずつ進化していくのである。子どもの好奇心にもきちんと寄り添っている本だと思った。また、6年生では、LEDを題材にしてプログラミングを作るような章もある。非常に身近な題材からプログラミングの入り口があることが、子どもたちにとって分かりやすいかと思う。あと、学校図書には、背表紙にSDGsのマークが記載されている。きちんとこの学びと今の社会課題の結び付けというところも意識されているところが、私の中では評価が高くなっている。

林委員

各社、非常に工夫をされているのは大変伝わった。丸はついていないのだが、啓林館の最初のページの方に、「理科の楽しみ方」ということで、こうやって学んでいくとこういうようにつながっていくよ、というような紹介があり、これは優しいと感じた。また、大日本図書では、見開きの写真の比較が分かりやすく、「問題を見つけよう」につながっていて、違いを子どもたちに考えさせるところが良いということと、4年生の教科書で、春夏秋冬同じ場所の写真を見ることで、「ここがこういうように変わっていったな」というように、花の咲き具合や雪の降り方を見て季節を振り返りながら学べる工夫が良いと思った。また、東京書籍では、「レッツトライ」の最初の問いが、非常に大きくぱっと書いてあり、子どもの気持ちが高まると思ったことと、こんなところにもと思うような、何気なく気付かせるような作戦がところどころにあり魅力的だと思った。また、教育出版は、先ほど下平委員からもあったが、安全の手引きとか、常に実験をする度ではなくて、教科書を置いておくところに安全に関する内容が見えるというのは良いと思った。そしてやはり、それも含めて学校図書は、表紙の裏のノーベル賞受賞者からのメッセージとか、または「理科モンスター」のアドバイスだとか、子どもの心を刺激するも

のが多かったかと思う。それから、栽培カレンダーというのが、始めの方に載っている。1年間、これをここで育てて植えていく、これは教師目線で、「植え忘れた」とかが無くなると感じ、非常に役に立つと、少し助かると思った。また、先ほど話にあったが、できるようになりたい問題を見つける、そしてできるようになったという、一連の学びの流れが明確になっていたり、実験などいろいろな準備のところチェックの四角が何気について、「これあるかな、やったかな」と確認できるようになっていたり、そこが子どもにも視覚的に確認ができる良い工夫であると感じ、学校図書を推したいと思った。

朝比奈委員

理科の授業というのは、どんな授業だったかと思い返してみると、実験をはじめとして、視覚的なところがたくさんあるのかと思う。このコロナ禍で、子どもたちが理科室で集まって実験というのは、なかなか難しくなってきたと想像できるが、反面、タブレットの配布で、実際に実験できなくても、映像を見ることで色々な事が体験できるようになっている。これもすごく大事なことで、理科室できなくてもそれが分かる仕組みができていくと思う。東京書籍が、本当にダイナミックな写真の使い方であるとか、表紙の様子であるとか、古い出版社でありながら新しいことを積極的にしているというのは、逆に歴史が古いからこそできる体裁なのかと感じている。いろいろなことを総合して、やはり学校図書のこの体裁が、常にバランスがとれていて非常に良いかと思う。デジタル的な工夫は各社ある訳なのだが、その中でも振り返り問題をデジタル上で解答できるといったことが、子どもたちが興味を持って理科の授業に触れられる、ひいては科学に関心を持って、立派な科学者になると思う子どもたちが出てくることにつながり、すごい子どもたちが育つかも说不定。また、色々な科学の世界の方々の話が紹介されていることも踏まえて、学校図書を推したいと思う。

高橋教育長

特に理科は6社であるが、下平委員からあったように、本当にそれぞれ良いところがあって、大人も本当に関心を持ちながら、読み進められるような内容だったと思っている。その中でも、各委員からの意見を総合すると、東京書籍または学校図書を推す意見が多かったと思う。林委員からもあったような、実際に実験や観察を行うときに必要な工夫、安全面、またはその手順や準備についてのチェック欄が見開きで整理されていて、先生の側としても使いやすさがあるのだろうと思っている。また、長尾委員からもあったように、プログラミングに関する記述などは、身近な生活の中でこういった情報技術があって、意図した処理のために様々な手順を追っていけるといった、段階的に学んでいける仕掛けが学校図書についてはあったと思っている。下平委員から話のあった「理科モンスター」のような、理科の切り方、考え方というところも働かせて、観察や実験を行い、自然の事象や現象についての問題を探求しながら解決していけるような内容や、いざなわれるような仕掛けがあるということが学校図書の評価のポイントだと感じている。東京書籍についても、視覚的にコンパクトで見やすく、非常に関心が持ちやすい工夫がされている点が良いところであると思っている。選んでいくのが難しい部分ではあるが、先程申し上げたような点や、各委員の意見を総合すると、学校図書が、理科の学びを進めていくうえで、主体的な問題解決を探求していくことへの工夫が総合的に多く見られると感じている。従って理科は学校図書を選びたいと考えているがいかかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、理科については学校図書を選定する。続いて、生活について担当指導主事の報告書の説明をお願いします。

生活担当指導主事

生活について説明する。検討委員会で6社の教科書見本本を検討した結果、その中でもふさわしいと判断された3社について説明する。

まず東京書籍について説明する。タブレットを使った写真撮影や情報の共有と、タブレット端末を使った学習の様子が随所に示されていて、低学年の児童にとってどのようにタブレット端末を活用するかが良く分かるようになっているとともに、QRコードを用いた動画や、映像教材についても特に充実している。上巻26ページからのパノラマページにより、植物の変化の様子が分かりやすく、また、上巻の最後の図鑑にはそれぞれの季節の生き物図鑑があり、身近な生き物が大きく綺麗な画像で示されていることで、見やすく分かりやすい作りとなっている。

続いて大日本図書について説明する。下巻の表紙についているQRコードを読み取ると、すぐに該当する資料を探し出すことができ、また、教科書内のQRコードは実際の授業の場面で見せたい物をすぐに見せることができて便利な作りとなっている。

最後に光村図書について説明する。文字の量が少なく、1年生にも読みやすい作りとなっているとともに、写真だけでなく、イラストでも学習の内容を示しており、シンプルに注目しやすいところが分かり、学習の内容がイメージしやすいものとなっている。

(質問・意見)

林委員

各社とも非常に1、2年生の生活を意識した構成になっているかと思う。各社とも巻末に学び方とか安全に関わる学ぶ力をつけるための技が、例えば「かつどうべんりちょう」という名前がついている。これにより、授業しながら「後ろの何ページ見てごらん、こういうこと書いてあるよ」とか、「お外に出るときに乗り物に乗るためにはこうだよ」というような使い勝手が、どの会社も非常に工夫されていると感じた。後は、生活では種とか発芽、栽培についての内容が非常に多いのだが、種から芽が出て花が咲く流れが上手く表現されており、ページを並べてつなげると、時系列で種が花になるところまでが見えるよう工夫されていて、植物のつながりを視覚的に分かるように作られていた。ただその中で、色々と各社が工夫しているところなのだが、学校図書では「ものしりノート」というのが非常に充実していると思った。また、ところどころにあるイラストの板書が、ただ板書が書いてあるのではなくて、内容を読むとなかなかいいと思った。教育出版は、「わくわくスイッチでスタートからの自分診断」が非常に興味を引いた。おもちゃの作り方の説明について、QRコードを用いて動いている物を見て学ぶのもいいが、低学年だと逆に動いているよりも静止画をじっと見て「このようにやるんだよ、次はこのよ

うにやるんだよ」という学びの方が分かりやすい場合もある。その点、教育出版はおもちゃの作り方の説明が静止画だったので、こういった集中力とか、見る力、じっくり見るというような点が、1、2年生では適切であると判断した。光村図書は、街探検が非常に充実していることと、右側にある参考のイラストが少し軽い感じなのだが、子どもには少し楽しいのか、興味関心があるかと思った。そして東京書籍は、始めの、いわゆるスタートカリキュラムのQRコードを見たときに、教科書とか教室とか色々なところの学校の様子が説明なしにずっと動画で映っていた。学校によって作りが違っているので、やはりここに写っているのはオープンの教室だったのであるが、「うちの学校ではこうだよ」といったように先生が止めて、そこで先生がコメントを言えるというところでは、音声、説明がない工夫が私はすごく気に入った。他の会社にも同じものはあるのだが、説明がどんどん入っているので、子どもたちが見て聞いて、自分の学校と比較するのは難しいと感じたところである。それから、要所に「〇〇ずかん」といったものがあり、それも学びの助けになると思う。そしてもう一つは、板書、電子黒板、掲示板上についてイラストを上手に使って描いているのである。鎌倉市は全部の教室に電子黒板があるので、この電子黒板を活用してくためには、こういうイラストで出ているというのが、私は参考になると思って、最終的には東京書籍が良かったということ報告したいと思う。

朝比奈委員

光村図書は、先程の国語等でも申し上げているとおり、やはり書体等が非常に落ち着いて見ることができるという点で優れていると思う。東京書籍は、写真がダイナミックであり、幼稚園・保育園から小学校に上がってきて、色々なことに興味を持ってきている子どもたちにとっては、こういう明るい紙面構成というのがすごく大事なことであると思う。1年生の上巻にある「学校生活スタート」というところについて、切り離して別に扱うことを授業でするかどうかは別としても、これだけあえて別添えのようになっていることが、「どきどきわくわく」という副題がついているのもあり、新しい生活にいざなわれていくというこの演出が良いと感じた。従って、東京書籍を私は推したいと思う。

長尾委員

私も東京書籍と大日本図書で非常に迷ったが、最終的には東京書籍が良いと思った。やはり先程から申し上げているとおり、レイアウトや写真のインパクト、視覚的な部分が非常によいと思うのと、あとは非常に細かく、例えば植物のところだと、種からどんなものが出るのかといったところを数多く写真付きで説明しているところも良いと思っている。生活というのは低学年、特に1年生にとっては全ての教科につながると思うので、その教科から興味関心をどんどん膨らませていって、他の教科や学校生活に生かしてほしいというところで、この東京書籍の本が適正であると思った。ただ、大日本図書の方で捨てがたいのが、下巻の最後に「見つけよう自分の素敵な姿」というのがあって、自分に対する良いところとか感謝の気持ちみたいなどを10ページくらいかけて訴求している。自分というものを大事にしていく姿勢に対して最後に多くのページ数を割いており、ここが私の中では良かったと思っているのだが、全体的には東京書籍が良いと考えている。

下平委員

生活はまさに学校生活、そして教科で言えば理科や社会につながる非常に大事な教科かと思っています

る。子どもたちが学校生活や学びに興味を惹かれていく入り口のところだと思う。そういう意味で、各社とも本当に様々な工夫があって、魅力ある教科書になっていたと感じた。光村図書は「せいかつたんけんか」と表紙にはっきり明示されていて、「はじめてがいっぱい」とか「発見大好き」という呼びかけが書かれていて、発見、冒険する心をそそるような作りに全体的になっていると思った。とびきり光村図書はサイズも大きくて厚い、しかし文字が非常に少なく、イラストや写真が中心になっていて、これは先生の引き出す力と考えさせる力が非常に求められる印象を持った。教育出版は、それぞれのページに「なりたいな」、「仲良くなりたいな」、「自分でできるよ」、「ワクワクするね」といった呼びかけ調の目標がタイトルに定められていて、ここでどんなことを掴みとるのが、生徒にも非常に分かりやすいのではないかと思った。付録の「学びのポケット」では、1年のポイントが良くまとめられていた。学校図書は、上下共に「安全のページ」というのが非常に大切に分かりやすく掲載されていて、知らない人から声をかけられた時の身の守り方、行動の仕方なども詳細に示されており、「いかのおすし」という語呂合わせでまとめられていて良いと感じた。また、植物や昆虫の写真などが大きく掲載されているのも学校図書の魅力かと感じた。ただ、現在使っている東京書籍に関しては、タイトルが非常にシンプルで、各章ともに明確で、やはりここも「何が見つかるかな」、「何が出来るかな」、「どうしたら楽しくなるのかな」という問いかけで明示されている。通学路の安全について丁寧に分かりやすく取り上げられているし、活動便利手帳では生き物の図鑑が実物大で取り上げられているなど、ダイナミックな工夫もなされていて、紙面構成も見やすく分かりやすく、使いやすそうに作られていると感じた。総合的に判断して東京書籍を推したいと思う。

高橋教育長

委員から、東京書籍、光村図書、大日本図書、学校図書について、それぞれの教科書の良いところの意見をもらえたと思う。本当にどの教科書も良いところがあるが、私が重視したいと思うのは、長尾委員や下平委員からもあったが、これから学びに入っていく小学校1、2年生の子どもたちが学ぶ教科になるので、発達段階に応じた作りになっているかということである。特に光村図書や東京書籍については、小学校低学年の子どもたちが学ぶにはふさわしいコンテンツになっているかと思った。その上で、身近な人だったり、または社会や自然との関わりを通じて気づいたこと、楽しかったことを表現したり考えたり、そういう気付きを確かなものにして行くところが重視したい観点かと思っている。そういった観点に立つと、冒頭に林委員から東京書籍を推す声があったように、私も東京書籍が総合的には優れている部分があるのかと思っている。鎌倉は、GIGA スクール構想によって非常に良い大型の掲示装置が整備されていて、各教室それを踏まえた授業が出来ている。そういったところを教科書上も踏まえており、それだけではないのだが、見つけるとか比べるとか見通すとか工夫するとかそういった多様な学習活動に対応する様な教科書になっていて、学びがいざなわれ、そして深まっていく仕掛けになっているように思った。委員の他の教科書への指摘は私もそのとおりだと思うし、他の教科書も大変素晴らしいところもあるのだが、総合的に勘案して生活では東京書籍を採択したいと思うがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、生活については東京書籍を選定する。続いて、音楽について担当指導主事から報告と説明をお願いします。

音楽担当指導主事

それでは音楽について説明する。検討委員会では2社の教科書見本本を検討した。その結果について説明する。

まず、教育出版について説明する。教科書に直接書き込みができるスペースが多く、児童が深く考える授業を展開しやすくなっている。また、学習指導要領解説音楽編の共通事項を音楽の基として、音楽を形作っている要素を、音楽を表す色々な言葉としてまとめてあり、各学年の発達段階を考慮した図版や絵で記されている。

続いて教育芸術社について説明する。鑑賞教材では題材の狙いに則した教材が選択されており、曲の特長を明確に表した挿絵を採用し、視覚的に曲調が分かりやすい構成となっている。

(質問・意見)

林委員

両者とも学びの道筋が児童にも指導者にも分かるように工夫されていることは良く伝わった。教育芸術社はリコーダーの指導について非常に分かりやすく扱っており、タンギングという笛を吹く時の吹き方なども、イメージがとても分かりやすいと感じた。また、学びのマークというのが5つあるのだが、それがシンプルなマークになっていて、子どもたちが教科書を見ると今何を学んでいるのかというのがとても分かりやすく記されていることを感じる。加えて、選曲についても子どもが楽しんで取り組める曲になっている。「小学校の音楽」という表紙の名題がとてもきちっとした名題となっているが、その割にはイラストがとても可愛らしくなっており、内容的には非常に明るい、子どもが好きそうなリズム感がある物を選曲していると感じている。教育出版は、「学習マップ」という写真や楽符やイラストを織り交ぜて、授業が始まる前または学年が始まる前にこんなことやるよというのが非常に分かりやすく視覚的に書かれていると感じた。私が一番教育出版で良いと思ったのは、この鍵盤ハーモニカなのだが、鍵盤ハーモニカが教科書の下の方ギリギリに写真で描かれているのである。その上半分にそれを弾くための楽符が見開きで分かるようになっているので、鍵盤ハーモニカがなくても、だいたい本物と同じ大きさなので、ここでも指使いなどが学べるようになっている。吹きながら指づかいを学ぶのは、子どもにとっては大変なので、吹く前に指づかいだけをこの教科書を使って学ぶことができるのは非常に適切な良い配置をしていると感じた。これは私が教育出版の一番良いところであると思っている。また、QRコードでは、表現の仕方として実際の動きが音楽に合わせて見え、先生がやり難いというものをQRコードでお願いすることもできるようになっている。オペラや鑑賞曲等は実際のオペラの写真があり、実際に見るチャンスのないものを写真で見るという教科書の役目をきちんと果たしていると感じた。加えて、共通事項というのが先程紹介であったのだが、これを意識しないで授業を進めると、子どもたちも指導者側も1時間、歌って演奏しておしまいになってしまうこともあるため、この元ということが、教科書の必ず端に書いて付けてあるので、そういうものを子どもと一緒に意識しながら学んでい

くことで、曲を歌ったり演奏したりするなかで、その力を養っていきけるいい構成になっているのかと感じた。最後に、教育出版は、全校合唱や演奏といったものを必ず入れており、音楽のひとつの役目として、つなぐ力があるかと思うのだが、それを具現化したもので、私は評価に値するとも思っている。1年生は歌えるだけ歌う。2年生で鍵盤が入るので2年生がちょっと鍵盤を入れる。それに3年生になったらリコーダーが吹けるからリコーダーを吹く。4、5、6年になったら、もっとダイナミックな楽器を入れて伴奏を入れるとか、そういったように、1つの曲がバージョンアップしていったら、みんなで1つの曲を作るという、非常に音楽の理想にかなった取組をしているということで、私は教育出版を勧めたいと思っている。

朝比奈委員

私は、音楽は小学校で得意であった。歌が大好きだったので、小さい時には合唱団に所属していた。しかし、しっかりと教科書を読んでいなかったのか、いまだに五線譜は読めなくて、勝手に歌っている訳であるが、音楽に親しむという点では、大変親しんで、成績が良かったことを覚えている。この2社を見ると、どちらも確かに優れた構成になっていると思う。どちらから選ばなくてはいけないとなれば、私も教育出版を推したいと思っている。どこが決め手かといわれると、これは印象であり、いちいち申しあげたら選択の方法としてどうなのか、という意見があるかと思うが、教材として教育出版の方が整った構成に見えるのである。洗練されているとか、読んで楽しいとか、そういう点において、この教育芸術社も楽しい構成になっているのであるが、教材として考えた時に、整っているのが教育出版であると感じており、私はこちらを推したいと思う。

長尾委員

私も教育出版を推したいと思う。音楽というのは本当に楽しめる、みんなで一緒に作り上げる教科かと思っているので、そんなところを1年生からどんどん楽しめるようなストーリーになっているように思う。また、書いてある楽曲や鑑賞曲も、非常にバランスが良いと思った。教育出版では、「育もう地域の文化、伝えるよう地域の芸能」といったことが各学年の背表紙に書いてあるのだが、こういった音楽というものは、奏でるだけではなく、地域を物語るものであり、「歴史も考えながら育んでいこうよ」というメッセージが全体的な教科書のストーリーなのではないかと思っている。従って、教育出版を推したいと思う。

下平委員

どちらも歌う、演奏する、そして鑑賞する、非常にバラエティ豊かに取り上げていて楽しかった。2社ではあるのだが、読むのにとっても時間がかかった。というのも、QRコードが各ページについていて、それを見ると、リズム、動画が音楽と共に示されて、一緒になってリズム体操をしたりして楽しむことができた。教育芸術社は、「みんなで楽しく」というページに様々な曲がまとめられている工夫もあったが、ただひとつ気が付いたのが、シンプルでテキストには説明が少ないために、QRコードを読み込まないと、教科書だけでは子どもが理解しにくいという点がところどころ感じられた。「学習マップ」というものがトップに取り上げられていて、振り返りのページでまとめられている構成になっていて、これは分かりやすく作られていると思う。教育出版は、タイトルが「音楽のおくりもの」ということで、

表紙も非常に夢があって、明るいイラストになっており、わくわく感がいざなわれる。そして、簡単な歌なのであるが、1年生から英語の歌が取り上げられているということも、今後のためにつながるかと感じた。紙面構成も、先ほど林委員からも意見があったように非常に工夫があり、例えば下にしっかり楽譜を揃えていて、彩りの使い方、写真の使い方も豊かで、非常に見やすい構成になっていると感じた。2年生から6年生の教科書に、必ず最後の方に、「さんぽ」という全校合唱の曲が取り上げられていて、これは林委員が専門でもあるので、鎌倉の教育の中で、この「さんぽ」という曲は結構使うのかと質問したところ、色々な学校で活用しているということなので、そういう点も大変良かったかと思う。また、音楽の世界で様々に活動されている著名な方々の、小学生に対するメッセージなども豊富に取り上げられていることもあり、教育出版を推したいと思う。

高橋教育長

各委員から貴重な意見をいただいた。本当に私も納得しながら聞いていたが、どれも非常に私にとっても学びになり、勉強になった。音楽の活動の楽しさに触れて、音楽表現を味わって聞いていくことができるようになってきているかというところは、私も重視して見ていた点である。そういった観点でみると、林委員から話のあったオペラのような本物に触れる機会の少ないものについて写真で見ることができるとことや、下平委員から話のあった英語の歌があるといったこと、または三方向の取り上げの工夫など、こういったところは教育出版の強みなのかと思った。一方で教育芸術社も、長尾委員から話のあった和楽器の取り上げ方など、様々な工夫が見られた。選曲も林委員が言うように、非常にいいものが含まれていると思う。そういった選曲についても、我が国の郷土の音楽も含めて愛着が持てるような、長年親しまれてきたような歌が含まれていることも大事かと思っていた。これについてはどちらの教科書も優れた面を持っていると私も見ながら考えていたところである。あとは、子どもたちの感性や情操を育みながら、音楽と豊かに関わっていけることに工夫がされているかが大事だと思うが、先ほど林委員からも話があった鍵盤の工夫をはじめとして、朝比奈委員が言うように非常に構成上、優れた面が教育出版にはあるというのは、私も同じ意見である。それぞれの良さがあって、非常に悩ましい部分もあるのだが、総合的には教育出版の声の方が大きかったかと思う。従って、音楽については教育出版を採択したいと思うがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、音楽については教育出版を選定する。ここで昼の休憩にしたいと思う。予定どおり1時半再開とし、午前中の部は以上とする。

<休憩>

高橋教育長

それでは13時半になったので、議事を再開する。図画工作について担当指導主事から報告をお願いします。

図画工作担当指導主事

図画工作について説明する。検討委員会では2社の教科書見本本を検討した。その結果について説明する。まず、開隆堂について説明する。巻末の「ひらめきショートチャレンジ」では、いろいろな発想が引き出されるような工夫がされていて、授業の中で、児童同士がそれぞれの発想の面白さに気づいたりアイデアを交換したりすることが期待できる題材になっている。

続いて、日本文教出版について説明する。教科書全体を通して美術館や美術作品を取り上げたり、アートカードを使った鑑賞ゲームが紹介されていたりするなど鑑賞教材が多く、また様々な鑑賞の方法の例示がされている。巻末の「材料と用具の引き出し」では、用具の説明が写真やイラストで示され解りやすい工夫がされている。

(質問・意見)

長尾委員

2社とも表紙から始まり、中身もデザインが良く、子どもの生き生きしたりリアルな写真を使いながら、図画工作に取り組む姿が非常に生き生きと表現されていて、どちらも素晴らしいと思った。その中で、私は開隆堂が二点ほど良いと思った点がある。先程の説明にもあったのだが、学び合う取組の工夫がされていて、互いにアイデアを共有する場面が多かったことと、後は、各所のタイトルに工夫があり、例えば3年生下巻の彫刻刀の章であるが、ここは「彫刻刀を使うよ」等ではなく、「ほった線からはじまるお話」といった、子どもたちが想像できるタイトルになっていて、どんなことを学んでいこうかという点も含めて、実践も含めて伸ばしてくれる本がこちらなのではないかと思い、開隆堂を推したいと思う。

下平委員

現在は開隆堂を使っていると思うのだが、今回調査検討委員会で日本文教出版を選んだ決め手になったことを伺いたい。

図画工作担当指導主事

検討委員会で出た意見としては、日本文教出版の取り上げている題材が、今までにないようなもの、同じ彫刻刀のものでも今まで開隆堂で使ってきたようなものではないものが紹介されており、このような使い方ができるというところを、子どもたちと一緒に探っていけるのではないかということで、日本文教出版の方に意見が出た。

下平委員

私もどちらも興味深く内容を見たが、日本文教出版は、5・6年生の上巻に「ミニチュアカード」というものが出てきて、このカードの使い方は面白いと思った。ただ、芸術作品を小さなカードにしてしまっているので、少しもったいないという気がしなくもなかった。あとは、教科書美術館などの紹介の仕方も素晴らしかったと思う。ただ、開隆堂も、表紙から非常に鮮やかで、何かダイナミックに構成さ

れており、それぞれのテキストにタイトルが付いているのだが、「わくわくするね」とか、「出来たらいいな」とか、「力を合わせて」とか、そういう想いが盛り上がるような呼びかけがあった。各単元に、「チョッキンパツでかざろう」とか、「すいすいぐるーり」とか、「えのぐひっぱレインボー」とか、キーワードになる面白いタイトルが付けられていて、何か鎌倉の子どもたちを盛り上げようとする良い誘いができるのかという印象があった。また、渋谷駅の「明日の神話」が大きく取り上げられていたりするところも、私たちにとってはとても身近な題材も著されていると感じた。どちらの教材も豊富な鑑賞教材を用意されているのだが、どちらかという開隆堂を推したい気持ちがあった。様々なアーティストが表紙裏に掲示されていて、色々な分野でアートを活用している、様々な職業人の紹介が豊富にされているというのも開隆堂の魅力かと感じる。

林委員

私も、どちらも色々な表現、角度の工夫がされていて、写真も目を引くものが多いと感じた。特に日本文教出版のタイトルのところで、必ず活動プラス鑑賞となっているのである。どの教材も、例えば立体鑑賞、そして糸ノコ等と書いてあり、工作でも必ず、どんなことを作っても描いても、良いものを観るだけではなく、それぞれお互いの作品を鑑賞し合ったり、自分のものをもう1回見つめ直したりという、この鑑賞という言葉が必ず付いているところに惹かれた。やはり自分がやるだけではなく、観るところから何か感性を育てるところでは、良い内容であり、良いタイトルであると思っている。また、QRコードで立体は360度回転して見え、奥行きが分かるので、図工の共通事項の中に、動きや奥行きを捉える能力を培うというのがあるのだが。そこのところには、この2次元コードはぴったりきているのではないかと思う。また、5・6年の糸ノコの2次元コードでは、電動ノコの扱い方について非常に細かく動画が分割されていて、部分的な指導に効果的であり、安全面でも担保できるのではないかと思った。先生方の、新しいものに興味を持って取り組んでいきたい気持ちも非常に良く分かった。ただ、開隆堂はどのページをぱっと開けてみても、写真のインパクトが大きいのである。粘土細工にしても絵にしても、ぱっと見えるものというのは、子どもを大きく惹きつけるのではないかと思う。指導者のいうと、日本文教出版の方が扱いやすいと思うところはあるのだが、子どもの心、感性を磨くというところでいくと、開隆堂も捨てがたいというところで、一番悩んだ教科でもある。今のところは私の感想はこういったところである。

朝比奈委員

この図画工作という授業によって、子どもたちが何に気づいて何につながっていくか、将来、例えば美術、芸術の世界、アートの道に進み、専門的な学びにつながるような、そういう興味を沸かせるような、それが1つは図画工作という授業の役割かと想像するところである。そういうことを踏まえて考えると、私も開隆堂の方が紙面の鮮やかさとかそういったところが良いと思った。私もこの「ひらめきショートチャレンジ」という最後のところ、ただ単に何か図画工作をする、いろいろなことを学んだというだけではなくて、何か先につながるような、発想を膨らませるような工夫が大事だと思う。日本文教出版の裏表紙にある、みんなの作品が見られるというQRコードも楽しくて良いのだけれども、どちらを選ぶかといわれたら開隆堂を勧めたいと思っている。

高橋教育長

少し私の方で整理すると、現在鎌倉市で取り扱っている教科書は、開隆堂の教科書である。一方で、委員会の専門的な審議の方から出てきた、より良いものという推薦としては日本文教出版であったという中で、各委員からの意見があったところである。また、別途学校現場からの使用感や、課題というのもアンケートのような形でとっている。これについては拮抗してはいるものの、件数的に、数字上は、開隆堂の方が多かったという結果になっている。そういった中で、私も改めてこの2つの教科書を読んでもみると、非常にどちらもよくできているのは間違いないと思う。その中で僅差ではあるものの、鎌倉市の子どもたちにとって、どちらがいいのかをこの場で最終的に詰めていきたいと思っている。日本文教出版については、林委員の意見と非常に近いところがあり、活動と鑑賞を一体的にしていく意思を非常に感じる教科書であり、指導者にとって教えるイメージがつきやすい部分があるのだろうと思った。一方で、この委員会での各委員の意見からすると、どちらかというと開隆堂の方を推薦する声が強かったと思っている。この図画工作という教科だが、造形的な見方や考え方を働かせながら、生活や社会のかたちと豊かに関わっていく、味わうような観点や、または感性情操を養っていくといったものになる。そのベースとなるのは、やはり作り出す喜びや、美しさや良さを感じていく、表現していくということだと思っている。そういった観点で見ると、やはり開隆堂はいろいろな工夫があると思う。各委員からもあったような「ひらめきショートチャレンジ」というところは1つの工夫であるし、目当てが独立して子どもたちの関心を引きながら、この単元はどういったところを学んでいくのかということの方がよりわかりやすくなっている。後はQRコードの部分、そういったところを押されているかと思っている。そういった総合的な部分を勘案して総合的に見ると、開隆堂の方が優れているのではないかと考えている。日本文教出版の方もそれと拮抗するほど良い部分を持ってはいるのだが、鎌倉市の子どもたちにとって、委員の皆様からもあったような子どもたちの関心であったりとか、感性を育むというところが、この教科の重視すべき部分であると思うので、指導者にとってというよりは、子どもたちにとって学びやすさであったり、興味を引くような内容というところをより重視し、図画工作については開隆堂を採択したいと思うがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、図画工作については開隆堂を選定する。続いて、家庭科について担当指導主事から報告と説明をお願いする。

家庭科担当指導主事

家庭科について説明する。検討委員会では2社の教科書見本本を検討した。その結果について説明する。まず、東京書籍について説明する。「生活を変えるチャンス」というコーナーでは、家庭や地域の生活に関する課題を見つけ、解決に向けた実践に取り込む方法や流れがわかりやすく記載されており、児童が宿題として取り組みやすくなっている。また、SDGsについては「持続可能な社会へ物やお金の使い方」と銘打ち、SDGsと自分の生活とを関連付けて単元を構成しており、世界的な課題を自分事として捉えることができる。続いて開隆堂について説明する。風呂敷について詳しく取り扱っているページが

あるなど、衣食住全てに関して、幅広く伝統文化について取り上げられており、日本の伝統や文化を尊重する心情や態度が育まれるように配慮がされている。

(質問・意見)

朝比奈委員

こちら2社からというところなのだが、先に開隆堂からいうと、伝統的なところ、茅葺き屋根のこととか非常に詳しく書いてあり、風呂敷もそうだが、そういうことに関してはこちらの方がしっかりと紹介されている。また、エシカル消費について、鎌倉市もエシカル消費を進めているということもあって、この辺りの言及が深いということで、開隆堂も良いと思うのだが、相対的に紙面の感じから東京書籍が良いと思った。東京書籍は、いろいろな科目において、鮮やかですごく見ごたえがあるので、これはやはり家庭科という単元で言えば、見ていて興味を非常にそそる、見やすいイラスト使いであるとか、絵の使い方であるとかは大事なところだと思われるので、どちらかを選ぶといった点においては、開隆堂よりも東京書籍を選びたいと考える。

林委員

両社ともワークシートのように文章で書くのではなくて、「わかったかな」とか「できたかな」というように、自分でチェックを入れる自己診断をするところがとても良いアイデアだと感じていた。開隆堂は野菜の切り方とか、ものさしがあって、それを調理台に置いておけば、何気なくそういうのを見ながらできるというところで非常にアイデアが良いと思う。そして、内容的には、イラストよりも文字が多くて、フォントの大小で内容の統一感を出している感じがする。それに対して東京書籍は、朝比奈委員から話があったように、イラストもはっきりしていて、非常に見やすい感じがした。そして何よりも私が一番良いと思ったのは、このページの単元に入る前に、「いつも確かめよう」という、こういうページがある。ここには気を付けること、注意することが書いてあり、手洗いのこととか、安全なコンセントの抜き差しとか、地震が起こったときとか、これを始めに皆で共有して単元に入ると、単元の中にも「いつも確かめよう」というのが必ず書いてあるので、最初に学んだことが単元の勉強の中で、「あっ、あのことだな」と、子どもが少し注意したり、気付いたりするという、非常につながりの良い作り方をしていると感じた。やはり、学びの進め方に統一感があって、イラストも見やすいので、私は東京書籍が良いと思っている。また、「次へのチャレンジ」というコーナーがあり、それを書き込むことで、学びの記録が積み重なっていくということを感じている。

下平委員

私も両方を比べて、最終的には東京書籍を推したいと思っている。開隆堂にも大変魅力があり、各地に伝わるみそ料理とか、おせち料理とか、未来に伝えたい日本の伝統建築とか、伝統文化に根差した取り上げ方も丁寧にされていて、また、「買い物で困ったトラブル例」ということで、小学生なども巻き込まれやすいトラブルなどが具体的に挙げられており、その解決のヒントも挙げてくれているなど、工夫があると思った。SDGsについても、ところどころで丁寧に取り上げられているというのも印象的であった。ただ東京書籍は、サブタイトルが「私がつくる、みんながつくる、明日をつくる」というように

呼びかけ調に掲げられており、さらに表紙の裏には、「あなたの生活をより良く変えていく教科」ということが明確に打ち出されているので、そういう目標を持って、この家庭科という授業に臨めばいいということがはっきりしていると思う。それと全体を通して読んでみると非常に分かりやすいのだが、2年間の春夏秋冬の流れに沿って、非常にタイミングよく、夏の時期に巡ってくる時には夏の生活の仕方、夏を涼しくさわやかに過ごそうといった工夫が非常にあり、そういうところも意識して流れが上手く組み立てられていると感じた。あとは、「もてなしの心」とか「もったいないという文化を大切にしよう」という呼びかけなども、ところどころに織り込まれていて、非常に好感が持てる作りになっていたと思う。加えて、消費生活センターへの問い合わせの案内なども非常に分かりやすく明確に記されていて良いと思う。以上の理由から、東京書籍を推したいと思っている。

長尾委員

私も同意である。東京書籍を推したいと思っている。開隆堂も本当に素晴らしい本だと思っており、先ほども話があったが、おせち料理などはなかなか家庭でも作ることがなく、何でこの料理がおせち料理に入っているのだろうと歴史を感じるシーンがあまり無いのだが、このことにも言及しており、日本の伝統文化と教科書が連動している点は非常に素晴らしいと思っている。東京書籍の方は、一例なのだが、ソーイングのページについて、ソーイングは理論的に考えていかないと混乱してしまう子どもが多いと思うのだが、そういった子ども用に、先生目線になってしまうかもしれないが、フローがきちんと丁寧に書かれており、それに対する手法が書かれている。また、タイトルが「思いを形にして生活を豊かに」というように書かれていて、ソーイングという手段ではなくて、思いをかたちにし、それで生活を豊かにするというようなメッセージが、私の中では子どもたちに届けばいいかと思っている。あとは全体を通してだが、朝比奈委員も言っていたが、紙面の作りだとか、デザイン性、文字の使い方、写真の使い方など、視覚から訴えるものがこちらの方があるかと思っており、東京書籍を推したいと思っている。

高橋教育長

これまでの各委員の意見を伺うと、概ね共通するところが出てきたかと思っている。東京書籍は長尾委員も言っていたように、鮮やかで見やすく、視覚的な部分で優れているなというところが第一に感じるところであるし、一方で開隆堂は、おせち料理にも象徴されるようなコンテンツに様々な工夫があると思っている。おせち料理もその一つをとりながら地域性であったり、歴史文化であったり、様々な方向に展開していけるような内容だと思っている。一方で、この家庭と言う種目のことを改めて考えると、こういった子どもたちの身近な生活の営みに関して、伸び方や考え方を働かせながら、日常生活の課題解決力というところを伸ばせる、活用できるような内容であるかというところを一番重視したいと思っている。そういった観点でいくと、やはり東京書籍の「生活を変えるチャンス」という部分や、この単元を扱っているところの系統性というのは、非常に学びやすさがありそうだと考えている。また、他教科との関連や、中学校の学習も見据えた部分というところも感じられるかと思っている。様々なメモやチェック欄については、事故防止だとか、安全衛生であったりとか、様々な手順であったりとかを確認していけるようになっており、双方優れた部分があるのかと思っている。繰り返しになるが、委員からの意見としては東京書籍を推す声が多数だったかと受け止めており、またこの家庭科という科

目の趣旨を果たしていくと言う観点に立った場合の工夫や系統性というところを重視し、家庭科については東京書籍を採択したいと思うがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、家庭科については東京書籍を選定する。続いて、保健について担当指導主事から報告と説明をお願いします。

保健担当指導主事

保健について説明する。検討委員会で6社の教科書見本本を検討した結果、その中でもふさわしいと判断された3社について説明する。

まず大修館について説明する。1時間2ページの構成を基本としており、教材の分量が適切になるように配慮されているため、課題を解決するための活動、話し合おう、考えよう等について、一つ一つの学習の時間を十分に確保できるようになっている。

続いて、光文書院について説明する。各章の扉ページでは、学習へ導く問いかけが四コマ漫画で示されており、児童が学習で関心を持ちやすい工夫がされている。インターネットを使うときの注意や、インターネットと依存など、SNSやネットへの依存についての説明など、現代的な課題についての内容が学年を超えて繰り返し記載されており、学習したことが定着できるようになっている。

最後に学研について説明する。5年生「心の健康」では、児童が抱える悩みについてイラスト等を使って具体的な説明があり、「いじわるやいやなこと」としていじめについて明記されており、現代的な課題である心の悩みについて、深く考えることができるようになっている。

(質問・意見)

下平委員

現在は学研の教科書を使っていると思うのだが、今回は検討委員会で光文書院が二重丸になっている。この大きな理由を伺いたい。

保健担当指導主事

先ほど挙げた3社はどれも素晴らしいという話ではあったのだが、学研について、現行の物と今回の教科書とで変わっているところとしては、書くことの欄が学研は非常に増えているということで、それについては調査委員会の中で、書くこと、書けることを重視し、自分たちの考えたことがしっかりと記録に残せるのが良いという話もあったのだが、その一方で限られた時間の中で、これだけのメモを書かせることができるのかが少し心配だということも検討委員会にもっていった。検討委員会の中では、光文書院の構成分量について、1時間を見開き1ページで記載し、学習の流れが一目で分かるのが使い易いのではないかということで、どちらも本当に良い教科書だということではあったのだが、今回は光文書院を薦めることとなった。

下平委員

私は心とからだの健康が専門なので、非常に興味深く、丁寧にすべての教科書を読ませてもらったが、それぞれに本当に工夫があると思った。特に今の子どもたち、そして未来の子どもたちが抱えるであろう様々な不安、悩み、心についてなど各社丁寧に扱っているのだが、やはり学研は17ページに渡ってかなり具体的な例も上げながら取り上げているというところで、子どもが、自分がそういう不安に捉われたときに自らそこを読んで気づきを得られるかなという点では素晴らしいと思った。他にも例えば文教社も非常に情報量が多く、「あなたのすっきり宣言、いきいき宣言」などなかなか良い呼びかけなども工夫がされており、大日本図書でははっきりとLGBTについて34ページ、39ページで丁寧に取り上げられている。また、「健康というのは夢をかなえる力になる」という力強い呼びかけなども語られていて、ここも見ていて魅力的だと思ったところではあった。確かに私も4年前に学研を推したのだが、今回確かに他の会社と比べると厚さも厚く、分量は多くなっていて、記入欄も多いなと感じた。私は記入欄がある事で、活用しやすいとか、記しやすい工夫があつて良いと思ったが、確かに保健の時間というのはかなり時間数が限られているので、分量的にはいかがかという気もした。ただ、時間に追われるから分量が少ない方が先生は進めやすいのかもしれないが、生徒の側から考えると、授業では丁寧に全ページ取り上げることはできないが、自分が心惹かれたページに関しては自分でそこで学び取れる、そして何かを気づきを得られるとしたらそれはそれで教科書として意味があるのかという気もする。子どもの立場にたって見ると、確かに分量は多いのだが、その分、学びも気づきもあるかなと思ったので、最終的には私は学研を推したいと判断したところである。

長尾委員

私も光文書院と学研で非常に迷った。学研は書くところが凄く多い。私は、これならばノートを作らなくていいので、保護者の立場からするとこれ一冊で良いのであれば忘れ物が減るし良いかなと思ったのだが、こちらが学校側の先生だとか、生徒の方でそれが負担になるということであると、これは少し問題なのかなと思う。まず導入をしていないので、良いか悪いかは今のところは申し上げられないのだが、私はこの記入の有無についてはさほど問題視はしていないところではあるものの、先生の意見もしっかり聞かせてもらった。学研の良いと思うところは学習の進め方の記載が毎回必ずあるので、これは分かり易いと思ったところである。結果的に私は光文書院を推したいと思ったところではあるが、その中の1つだと、先ほどの説明にもあった通り、インターネットの依存だとか、SNSの課題に対して一度のみならず、数回にわたって本の中できちんと訴求しているところ、これが授業として生徒のところに届くということが大事かと思っている。光文書院も学研も内容的にはあまり大差がないというか、非常に甲乙つけ難いということと、学研の記入するところの部分がさほど私の中では響かなかったのだが、光文書院のSNSの内容のところを評価し、私は光文書院を推したいと思う。

朝比奈委員

率直に言って、やはり学研は選ばれていただけあって、紙面が鮮やかである。今回少し体裁が変わったので、指摘のとおり記入欄が豊富にあって、これは確かにノートがいらすぞぐ良いと思うが、懸念事項であったとおり、現実にはそんなに長く授業が何時間もあるわけではないことを考えると、うまく

生かしきれないのかもしれない心配ももちろんある。その点を考えていくと、光文書院がイラストやアニメ的でとつきやすいところがあったと思うし、中の構成も大変簡潔に必要なところを押さえて、これは手元に残しておいて、後で資料として活用しても良いと思う。そういう意味でもどちらかを選ぼうかといったら、やはりインターネット絡みの情報のことなども踏まえて光文書院を私は勧めたいと思う。

林委員

まず大修館と、光文書院の形が少し似ており、見開きで一つの学びをして、最後に振り返りというかたちで、次につながる、すごくシンプルな学びの形になっていて、学びやすいということは私も感じている。保健という授業は、小学校の場合には時間数があまり多くない中で、どの項目単元を見ても、やはり子どもたちに伝えていかなければならない健康な生活、体の発育、心の健康、それから怪我、病気ということで、この小学校で1回は身に付けておいて欲しいものがまんべんなく含まれている。これらを教えておきたい、伝えていく、それから学んでいく、自分事として捉えて欲しい思いがあるので、本来であればじめ等のいろいろな問題があつて、心のところにバランスを多くしたい気持ちも重々あるのだが、やはり教科書としては同じ分量で同じ使い勝手で、そしてプラス教師の考え方とか、いろいろなセクションの中で膨らませていく形が良いのではないかと思っている。大修館は、必ず教科書の下に「豆知識」というのが付いていて、良い内容が書いてあるし、怪我の防止の所の実習コーナーが、実際自分が転んで怪我をしたらこうすると良い、というのが非常に分かりやすくなっている。学研は、本当に情報量が多く、読むところがたくさんあつて、先ほど下平委員が言っていたように、これが気になると思ったときに、それを読むことが非常に有効だと思う。私の印象としては、読むワークブック、読みたいときに詳しく記されていて、保健のときではなくても読めるのではという感覚を持ったのだが、教科書として考えると、少し書く部分が多くて、子どもも書かなければいけないところが空欄でそのまま過ぎていってしまうのは気になるところがあるので、やはり書くところというのは適度な分量が良いのかと考えている。先ほど朝比奈委員も言っていたのだが、各章のはじめに四コマ漫画の導入があつて、これから学ぶことが見えているということで、光文書院の教科書が良いかと思っている。非常に苦しい選択になるが、私も光文書院を推したいと考えている。

高橋教育長

様々な意見感謝する。少し整理すると、概ね推す声は光文書院と学研、この2社が多かったかと理解している。現在は学研の教科書を使用している状況である。そして、委員会の方から報告があつたのは光文書院に二重丸、学研の方に丸がついているということで、双方ふさわしいという状況になっている。光文書院、学研それぞれの良さについて、各委員から話があつたと思っている。追加で事務局に、もし良ければ聞いておきたいことがあるのだが、学校現場からのアンケートの結果、それから分量、ページ数、この辺について、光文書院と学研について、少し説明願いたい。

保健担当指導主事

学校現場からの声としては、現在使っているということもあつて、学研の方が少しポイント的には多くなっている。本校にふさわしいかどうか、あと教科種目別の観点等々、観点があるのだが、本校の児

童にふさわしいかどうかという点でいうと、光文書院の方が上であって、種目別の観点は同点、また、共通の観点というところで学研が推されている状況にある。分量については、3・4年生の教科書についてはほぼ同じであるが、5・6年生のものについては、ページ数でいくと光文書院が65ページ、学研が89ページとなっていて、授業時間で使うところのページ数についていうと、光文書院が35ページ、基本見開き1ページで使っている状況で、学研については60ページ、見開き2ページという形になっている。

高橋教育長

事実関係はそういったところである。また、各委員から出た論点を私なりにまとめると、3つあると思っており、1つ目は内容、2つ目には分量、そして3つ目は記載欄についてどう捉えるか、この3点であると理解している。内容については、学研は下平委員からもあったように、心の健康問題をはじめ、性の問題、性教育の部分や、病気の予防やいじめ、そういったところがかなり充実した内容があると私も感じた。2点目の分量については、今、事務局の方からも説明があったとおり、学研は非常に充実した内容ということもあって、分量も多いという状況がある。現在は学研の教科書を使っている一方で、今回、学研が発行してきた教科書が、だいぶ前回よりは分量が増えている状況になっており、記載欄が増えている状況になっている。3点目の記載欄については、この記載欄をどのように捉えるか。これは委員の中でも少し別れた見解があったと思っており、林委員が言っていたように、記載することに追われてしまうという心配もあると思ったし、または下平委員や長尾委員が言うように、上手く活用する、すべてを書くという話ではなくて、そこは指導方法でいろいろとできるのではないかという意見もあったかと思っている。非常に甲乙つけがたい、それぞれ特徴と良いところがある教科書だと私も思っている。従って、光文書院か学研かということで検討を進められればと思っているのだが、この2つを俎上に乗せてみて、少し比較したりすると、どのような意見や考え方があるか、追加で意見等あればお願いしたいと思う。

下平委員

保健に掛けられる時間というのは、具体的に何時間になるのか。

保健担当指導主事

指導要領では3・4年生で8単位時間程度、5・6年生では16単位時間程度であり、4年間で24単位時間程度ということになっている。

下平委員

難しいところだと思う。内容を見れば、分量が多い分それだけ当然情報量が多い。先ほど言ったように、子どもが何かという時に解決策の手掛かりになることは捨てがたいと思うが、確かに24時間しか時間がない中で、生徒にとっても先生にとっても負担になるようなことでは困るし、確かに学研は今年厚くなっているので、その部分は気になるころではある。

高橋教育長

今下平委員が確認した点は凄く大きなポイントだと思う。これは我々も総合的に見て行かなければならないという思いで、内容や分量、記載欄にしても、そういったところを総合的に捉えて判断していきたいと思っている。更に今追加で出てきた論点としては、非常に限られた時間数であるということが現実問題あるということである。4年間で24単位時間しかないと申し上げて誤解ないと思うが、その限られた時間の中で、この教科の目的である身近な生活における健康、安全について理解したり、様々なネット依存であったり、いじめであったりといった現代的な問題についても扱って理解を深めていくということが総合的にできなければならない。限られた時間の中でそういった教科の目的を果たしていくというのが、分量とか内容とか記載欄とかそういったもの以上に重要な、どういった目的でどうやってそれを身につけていくのか、それに相応しい教科書がどれなのかという観点で我々は考えるべきであると思っている。そう考えると、学研は非常に優れているところがあって、特に現代的な内容が濃われているというところ、非常に読ませる、書かせる、思考を深めさせる、そういったところを保健でも実現できるような教科書になっている。また現場の方からも学研を推す声が学校単位のアンケートでは僅かながら多かったという状況もある。一方で、今使っている学研の教科書から変更もあるところが我々としては気になる部分である。一方の光文書院は、林委員からも話があったとおり、コンパクトに見開きで収まっていて、授業や指導で身に付けさせ易い使い易い工夫がある。各章の扉ページとか、そういったことも含めて限られた時間数の中で子どもたちに必要な資質、能力という物を身につけさせるという意味では私としては推せる教科書だと思っている。非常に悩ましい結果になっているかと思っており、それぞれ学研と光文書院の個性がある教科書なので、正にこの教育委員会、教育委員、教育長の場でどちらの意思を持って選んで行くことかということになるかと思う。委員の意見は拮抗しているという状況だと思っているが、私としては、限られた時間数の中で目的を果たしていくという意味で、どちらが優れているか、そして教員が指導をし易く、子どもたちが保健で身に付ける力をしっかりと身に付けていけるかという観点に立つと、分量であったり記載欄であったり、内容については学研より劣るところがあるとは思うが、光文書院を推したいと考えているがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、保健については光文書院を選定する。続いて、英語について担当指導主事から報告と説明をお願いします。

英語担当指導主事

それでは英語について説明する。検討委員会で6社の教科書見本本を検討した結果、その中でもふさわしいと判断された3社について説明する。

まず開隆堂について説明する。教科書全体を通して、グループ活動、ゲーム活動が多く設定されていて、ペアで伝えあう場面も多いなど、話す活動が充実しており、相手と関わる楽しさを味わうことで、豊かな人間関係を築く力を向上させることができるようになっている。また「Sound Box」のコーナーでは、アブクド読みが生かされているなど、発音の練習が豊富に設定されていて、音や音声に慣れるこ

とができ、英語の文字と音との関連をじっくり楽しく学習できるようになっている。

続いて東京書籍について説明する。小学校文化に根差した英語教育の視点から、国語や道徳、社会、理科など、他教科と連携した活動が盛り込まれており、学びが深まったり活用できることを実感できたりするような、横断的な学習の視点がある。

最後に光村図書について説明する。英語と日本語の違いなど、言葉について考える場面が多く設定されており、言葉のニュアンスについて丁寧に扱っている。

(質問・意見)

長尾委員

開隆堂、光村図書、東京書籍、3社ですごく悩んだ。各社とも巻末に付録的にカードのようなものがあり、学習の時に使いやすい工夫だとか、子どもたちが自ら使えるような工夫があると思っており、その点3社とも非常に長けていると思った。小学校の英語教育というところで、やはりコミュニケーション、言語として違和感なく使える、その心理的困難感を少しでもなくしていくといったところを重視したいと思っており、声に出すとか表現をする、相手とコミュニケーションを取るといったところで、ペアとなりながら進めていくような題材が多い開隆堂が、そこでは一歩抜きん出ているかと思っている。発音も私の小さいころの英語とは違っており、アブクド読みということ为先程言っていたが、ネイティブのヒアリングができるような形だとか、きちんと小学校のころから基礎を積み上げていくという点で、開隆堂が良いかと思っている。

林委員

自分自身が英語の教科書のない時に育ったものであるから、非常に興味を持って読ませてもらった。丸の付いていないところなのだが、三省堂のページの作りで、レッスン1のところに見開きでイラストがあって、そこで最初導入のように、何があるかな、と思わせる仕組みがあるとか、会話ができる部分があって、そのあとに「Let's watch」とか「Let's listen」とか、やってみましょうというのが次のページに入っており、その流れがとても勉強しやすいと感じた。また、啓林館が学びの進め方として、自分事、生活のこと、それから世界にというように世界に意識を持って英語を学ぶというところが、この小学校の英語の意義にもつながると思った。また、教育出版も、これは私の主観ではあるが、6年生の中に「お手紙」の英訳があったのである。「お手紙」というのは、国語の低学年の物語のところにある話なので、それが英訳で出てきたのが非常に秀逸だと思った。とても懐かしい話を、今度は6年生の英語で学ぶという、自分が小さいときに学んだものが英語でしゃべるとこうなるのかといったものがある、とても素敵だと思いながら色々な会社のもので読んでいた。東京書籍は、分冊の「付け足しコーナー」というのがとても良いと感じたことと、写真を非常にふんだんに使っていて非常にわかりやすいと感じた。また、開隆堂は、最終的に色々を見てよいと思ったのだが、「授業で使える20ワード」というのが、とても楽な英語が色々書いてあって、これさえ言えば、これさえ分かれば先生と会話ができるといった感じがしてとても良いと思ったことと、英語の文字が太くて見やすく、ページごとのゴールがとても分かりやすいというところが良いと思い、最終的に開隆堂を推したいと思う。

朝比奈委員

アブクド読みという言葉は私は知らなかったのだが、小学校での英語であるので、やはり発音、読むこと、あるいは聞くことに親しむことは導入としてすごく大事なことだと思う。常々日本人は中学で3年間も英語を学んできて全然英語ができないと揶揄されるわけなのだが、この手前の小学校5・6年でこのように導入されていくと、やはりもう少し英語に親しんで、特に話すということを恥ずかしがらないで親しんでいくのが大事かと各社の教科書を見て思うところである。そういう中で比較していくと、それぞれの工夫があるが、開隆堂が節目の構成も良いと思う。どちらが上か下かということではないが、特に発音練習あたりのところのポイントについては開隆堂が優れていると印象を持ったので、開隆堂を推したいと感じたところである。

下平委員

4年前に学校図書を選び、現在使っていると思うのだが、それが今回は上がってこなかったということで、本当に一から振り出しに戻って全部改めて見ることにした。丸がついていないものも本当にそれぞれ魅力があり、例えば教育出版はアメリカの手話を取り上げていることに加え、ゲーム形式が多用されていて楽しみながら学べるような工夫がなされているし、2冊ですっきりまとまっている点も良いと感じた。啓林館は非常にコミュニケーションを大切にすることを明示していて、聞き手を見てゆっくりはっきりとジェスチャーを入れて話す指導が明確になされているところも魅力的であると思った。あとは三省堂も、5・6年の教科書にプラスして「My Dictionary」ということで、非常に分かりやすい辞書がついているということも活用しやすいと思ったし、ページ内にすっきりと収められている紙面構成も見やすいように感じた。私は光村図書が素晴らしいと思ったのだが、これはやはりそもそも光村図書が言葉とか会話、コミュニケーションというのを大切にしているというのが非常に分かり、笑顔とかアイコンタクト、はっきりした声を出すとか、相手に反応するということが大切に取り上げられていた。それから他の教科書と違い、スタートラインとして、相手の気持ちに反応することが大事ということで、「Are you happy?」とか「Are you sad?」とか、相手の気持ちを汲んでそれに対してどう反応するかということを取り上げられているところは、光村図書の特徴かと思った。それから心をつなぐ言葉として「Thank you, please」、「Are you OK?」、「That' great」という言葉が明確に何度も取り上げられていて、相手とつながるということを大切に作られていると思った。本当に英語の入り口、初歩にふさわしい教科書であり、分かりやすい作りがなされていると思って光村図書に惹かれた。ただ、開隆堂もそれぞれに「ワードブック」という非常に使いやすい単語帳がしっかりとついているし、それから先ほど皆からもあった通り、アブクド読みというこれから未来につながる発音を取り上げられているところも大変魅力的だと感じているので、開隆堂か光村図書で非常に悩んでいるところである。

高橋教育長

開隆堂を推す声が総じては大きかったかと思う一方で、下平委員からも話があったように、光村図書についても、非常に言葉にこだわりを持ったというか、意思を持った教科書だと思っている。タイプとしては開隆堂とかなり違う部分があると思う。これはこれの良さが、下平委員も言っていたようにある。開隆堂の他の良さについては、本当に各委員のコメントと全く同じで納得のコメントであったと思

っている。この小学校の英語は5年生、6年生になり、3年生、4年生は外国語活動で、それらにより中学校の英語に連動していく教科だと捉えている。外国語活動から引き取って、そして中学校に引き継いでいく性質に鑑みると、やはり私は朝比奈委員が言っていたとおりで、幼児が英語を外国語圏で習得していくプロセスと同じように、まずは聞くところから、そして話してるところからスタートしていくことが大事なのだと思う。そういったアブクド読みであるとか、または伝え合う、ペアで伝え合う活動とか、そういったところが開隆堂については意図的に意識されていると感じている。このように身近な事柄について聞いたり話したりするとともに、英語については今デジタル教科書の活用も進んできたりしているので、まず音声で慣れ親しんでいき、そういった十分に慣れ親しんだ英語の基本的な表現というものを、この20の表現というものにつながり、非常に良いまとめ方であると思った。こういった表現をさらに読んだり書いたりというところにつなげていって、自分の気持ちを、林委員が言っていたような「お手紙」であったりとか、そういったところで伝えたり、また対話しあうことができるような内容になっていると思っている。話すのはやり取りで発表という感じで取り上げられており、また、書くというところが單元ごとに内容や時間のまとまりが明確であるということも評価できるポイントなのかと思っているところである。加えて、世界の人々や文化伝統といったところについて児童の関心を引き出すとか、発達段階に応じた内容になっているかという観点からは、勧められたこの3社については非常に優れている部分があると思う。こういったところを総合的に勘案していき、各委員の意見を踏まえて、私は開隆堂を推したいなと考えているがいかがか。

(異議なし。)

高橋教育長

それでは異議なしと認め、英語については開隆堂を選定する。以上で全種目について協議を終了する。ただいまの協議結果をもとに、事務局に資料の作成をお願いし、議案第17条第17項の審議に移りたいと思う。それでは事務局資料作成のため、休憩とする。再開は14時45分をお願いしたいと思う。それでは休憩とする。

<休憩>

高橋教育長

それでは時間になったので、8月臨時会を再開する。日程2、議案第17号「令和6年度(2024年度)使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」を議題にする。議案の説明についてお願いする。

事務局

日程第2、議案第17号について説明する。「令和6年度(2024年度)使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」、その内容を説明する。この令和6年度(2024年度)使用中学校教科用図書については、令和5年(2023年)4月の定例教育委員会において、令和6年度(2024年度)使用教科用図書の採択方針について議決を受けた中で、令和2年度(2020年度)に採択した教科用図書と同一のものを採

採することとなっていることから、令和6年度（2024年度）使用の中学校教科用図書一覧表（案）のとおり、提案するものである。また、令和6年度（2024年度）使用小学校教科用図書については、先ほど種目ごとに協議、選定してもらったところであり、それを一覧表にまとめたものが、お手元の表の通りとなっている。11教科13種目の小学校教科用図書を採択するものとして提案をするものである。

（採決の結果、議案第17号は原案どおり可決された）

高橋教育長

その他、各委員から今日1日を振り返って何かあるか。

下平委員

ここまで調査委員会の委員を始め、教育指導課の方々も本当に苦勞なされたことと思う。私どもも毎回、本当に丁寧に大切に、生徒たちのため、そして学校の先生方が活用してもらえるようにということで、丁寧に作業をしているつもりである。最初にも話をしたように、教科書自体もかなり変わってきており、それから新型コロナウイルスの影響もあったが、学校現場の教育の仕方などもずいぶん変わってきていると思う。このような経過であるからこそ、教科書を活用してきた教育をしてもらえるようお願いしたい。これからもますます工夫が必要な、変化の時代かと思っており、その点、私どももこれからも考え続けたいし、先生方にも指導を引き続きよろしくお願ひしたいと思う。

林委員

指導主事の皆には本当に感謝する。私は自分が現場にいたので、どうしてもその立場からの視点で見ってしまうのだが、教育委員の皆に色々な視点から教科書に対する意見を伺って、大変勉強させてもらった。ただ、やはりこういったルールのため、1社の教科書しか選べないので、今の話の中で、色々な他の会社のいいところが、ここで共有されたところもあるかと思う。ぜひ、教育指導課、指導主事の皆を通して、各現場にもおろし、色々なところ活用してほしいと思う。先程下平委員が言っていたように、教科書を教えることより、教科書で教えるという基本に帰って、ぜひ各社の良いところを伝えていってもらえたらと思っている。今後ともどうぞよろしくお願ひする。

朝比奈委員

今日は早くからお疲れ様であった。また、傍聴の方にも感謝する。何年かに1回の教科書採択が始まると、そのたびに私は個人的に思うこととして、中々時間も取れずに、色々こう四苦八苦しなから臨むのだが、やはり1人でやる訳ではなくて、大変頼りになる仲間と、情報を共有しながら、こうして吟味できるということが、凄く有難く、そして頼もしいと感じる。そういう気持ちでこの度も臨むことができた。おかげで無事に非常にふさわしいものが選ばれたと信じている。本当に今日はお世話になった。感謝する。

長尾委員

本日はお疲れ様であった。傍聴の方にも感謝する。私は教育委員になり、初めて教科書採択に参加し

た。3年目で初めてである。教科書を比較する行為は人生初めてである。今までは与えられたものは、自分の中でこなしていくということだったのだが、今回、この取り組みの中で非常に多くの教科書を読みながら、出版社の思いだとか、今日本が抱えている教育への思いみたいなものも、ひしひしと感じながら読ませてもらった。今回選んだものは私たちが自信を持って、鎌倉の子どもたちや先生に届けられるのではないかと考えており、また現場の先生方から何か意見等があったら、ぜひそのようなものも逐一、私どもの方に共有していただき、また次に生かしていきたいと思っている。今後ともよろしく願います。

高橋教育長

各委員、今日は熱心な議論を長時間に渡って、本当に御礼申し上げたいと思う。今総括のコメントを受け、それ自体も私にとって非常に学びのある良いコメントだったと思うし、今日1日を通じて、本当に私にとって、そしてこの教科書を採択していくプロセスにとって、価値ある指摘をもらい、また重ねて御礼申し上げたいと思う。今の各委員のコメントを踏まえると、まず林委員や朝比奈委員からもあったが、この4人の教育委員の皆と、そして私との合議制で教科書を選んでいくということについて、非常に価値ある場だと思った。というのは、やはり指導主事は大変勉強して、忙しい中整理してくれていて、それについても身内でもあるのだが、御礼申し上げたいと思うし、また検討委員会の委員も十分に研究を重ねられて、そういったプロフェッショナルの検討がありつつも、一方で教育委員会制度の趣旨は、レイマンコントロールというところなので、そういったプロフェッショナルリーダーシップとレイマンコントロールという、この双方が必要である。4人の教育委員の大所高所の観点で今日は審議してもらったと考えており、非常にいい採択、選択、議論ができたと思っている。これは二項対立ではなくて、両方の専門性と大所高所の観点をマージしていくのが教育委員会制度の趣旨であり、非常に良い教育文化を作っていく重要な審議の仕方だと思っており、それが鎌倉市の教育委員会は実態としてできていると感じた。また、下平委員からあったように教科書の役割というのは非常に大きく変わってきていると私もこの採択のプロセスを経て思った。一方で教科書がすごいという部分もやはりあって、プロジェクトベースの学びであったり、総合的な学びを行うにしても、こういった系統的な学びであったり教科書というのが大事であるのは議論を待つまでもない訳であるし、朝比奈委員からも話があったように、デジタルにある程度置き換えられていく部分もあるだろうが、デジタルも紙もそれぞれの良さがあるように思う。そういった良いとこどりをしていくところが学習の目的であったり、子どもたちの認知の特性であったり、そういったところを踏まえると大事なのだろうということで、そういった良いところを使っていくところがより今後教科書づくり、または教材づくりには求められていくのだろうと思っている。そして何より長尾委員からもあったが、今回は約250冊の教科書を、大変忙しい教育委員に全部熟読することをお願いしており、朝比奈委員もお盆の大変忙しいときに、本当に重ねて感謝したいと思う。一方で主たる教材である教科書を選ぶという行為が、本当に私にとっても学びになったし、各委員も学びながら、楽しみながらやってもらえたということは本当に嬉しく思っている。教育委員会は子どもの姿こそ目の前にはないが、こういった一枚一枚の紙や教科書というところから子どもたちの息遣いを感じて、この紙の向こう側に子どもたちの姿というのをイメージして、真剣に対話をして真剣に選んでいったという場であったと思っている。選んでいくというプロセスが非常に素晴らしい価値のある場だったと思っている。雑駁なまとめではあるが、今回私にとっても初めての教育委員会の会議ではあ

ったが、また引き続きこの教育委員や事務局職員と議論を重ねて鎌倉の子どもたち、それから教育文化の振興のために力を注いでいきたいと決意を新たにしたところである。そして長丁場であったので、事務局職員、そして暑い中傍聴に足を運んでもらった方々にも非常に感謝している。

以上で本日の日程はすべて終了した。これをもって8月臨時会を閉会する。